

オ-ロラ

冬

カナダのライフスタイル誌・1994-5年冬・第9号



Ⓛ

Those Who Create A Standard Have An Obligation To Raise It.



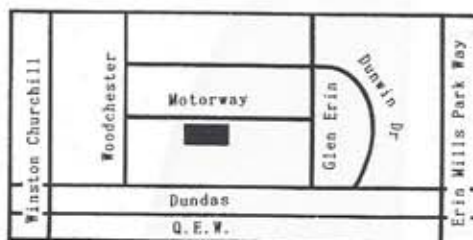
Presenting The New Lexus LS 400. A New Standard Of Luxury Automobile, From The Car That Set The Last One.

The first Lexus LS 400 raised the standard for all other luxury performance automobiles. Now, the new Lexus LS 400 is roomier, quieter, safer, faster, more comfortable, more nimble, more luxurious. In fact, it is improved in almost every way in which an automobile can be improved. Call 1-800-26-LEXUS for the name of the dealer nearest you.

You'll learn that the improvements we've made have not only created a new standard of automobile, but a new standard of value as well.




Erin Park
LEXUS TOYOTA
YOUR EXCLUSIVE LEXUS
DEALER FOR MISSISSAUGA



ERIN PARK LEXUS TOYOTA
Erin Mills Auto Park
2411 Motorway Blvd.
Mississauga, Ontario L5L 3R2
Tel: (905) 828-7711
Fax: (905) 828-6023

C O N T E N T S

オーロラ 冬

カナダのライフスタイル誌

1994-95年冬 第9号



- *冬のイベント・カレンダー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- *見たり聴いたり試したり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- *日本人の異文化体験「明治初めの世代とカナダ在住の子供達」・・ 6
太田雄三マギル大学準教授
- *「さすらい中年、北京（ペイジン）に行く」高田たかし・・・・・・ 8
- *「特派員の眼」上崎正則・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- *「トレーダーの窓」水谷雅和・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- *冬の風物詩『娘のスキー』北村恵理・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- *「某月某日」セザンヌを模写して想うこと・半田宏治・・・・・・ 15
- *「カナダの子育て・日本の子育て」小出まみ名寄短期大学教授・・ 16
聞き手 穂積由利子
- *映画エッセイ「the War」日塔富夫・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- *「おもいででのゴルフコース」端崎市郎、佐藤哲二、田中 和夫
小針弘明・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- *「冬の暖かい旅／ベネズエラのマルガリータ島」・・・・・・・・・・ 22
サンダース宮松敬子
- *「カナダ・ウォッチ」アンビュランス・チェーサー／高中公男・・ 26
- *オーケストラのお話『長靴下のピッピ』橋爪美穂・・・・・・・・・・ 27
- *続々「食はモントリオールにあり」加藤恒男・・・・・・・・・・ 28
- *詩の想い『からまつ』北原白秋（穂積由利子）・・・・・・・・・・ 30
- *「マイ・ホームタウン」田村滋男・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- *「東京裏通信」カラス公害／尼子三矢子・・・・・・・・・・ 32
- *「オープンハウス」杉山園子・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
- *季節のキッチン『栗づくし』（杉山園子）・・・・・・・・・・ 34
- *「赤い薔薇ソースの伝説」馬場直美・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
- *「クリスマスの子供の本」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
- *OCS新刊紹介／「死ぬまでになすべきこと」式田和子著・・・・ 39
- *読者のページ／編集室から・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

表紙 西野入淳子
 デザイン 山本 博
 野尻 佳子



1部 3ドル50セント





☆十一月二十八日から十二月五日
ハヌカ

ユダヤのカレンダーでは、キスレフと呼ばれる月の二十五日目に始まり、八日間続く祭日です。私たちの使っているカレンダーでは、毎年日にちが変わりますが、大抵十一月または十二月にあたり、今年は十一月二十八日から始まりません。

紀元前一七五年に、シリア人のアンタイアカス王がユダヤの統治者となり、ユダヤ教を禁止したことから、それに反抗するユダヤ人と、王の兵の間に戦いが起こりました。この時ユダヤ人の先頭に立ったのがマカベアといわれる人たちです。この戦いは、マカベア

の勝利に終わり、王の兵に占拠されていた神殿を取り返しました。その時、神殿の燭台に久しぶりに灯がともされましたが、油は一日分しかなかったはずなのに、何とその灯は八日間燃え続けました。この奇跡を祝ってハヌカという祭りが始まりました。ハヌカは、「神に捧げる」という意味です。現在ハヌカで使用される燭台は、八本の枝がある独特の形をしています。ユダヤ人の子供たちは、このハヌカが来るたびに、マカベアの武勇伝を聞かせてもらうのだからです。



☆十二月二十五日
クリスマス



サンタ・クロースの住所をご存じですか。
手紙を書けば、サンタさんとそのお手伝いさんたちが必ず返事をくれるそうです。

SANTA CLAUS
NORTH POLE HOH OHO

サンタ・クロースのもともとの名はセント・ニコラス。この人は子供にとって父親的存在の聖人でした。サンタ・クロースが煙突から家に入るの、昔々冬至の頃に煙突を掃除した習慣と関連があるようです。オランダでは、セント・ニコラスは風のように走る馬に乗って旅をしたという言い伝えがあります。これがトナカイにいつの間にか変わったようです。また、子供たちは、小さな木靴をセント・ニコラスの見える所に置いて、プレゼントを期待したそうですが、この木靴が今何に取って変わったかは、おわかりですね。

 **日新** NISSIN TRANSPORT (CANADA) INC.

航空海上輸出入貨物輸送／倉庫保管／トラック運送
海外・国内引越し／事務所移転・・・その他何でも

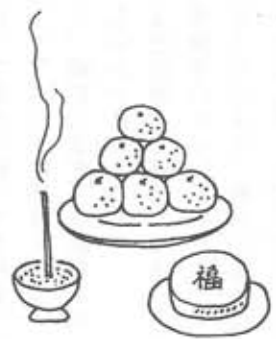
「運送のデパート日新」の

国際ネットワークを御利用下さい。

日本国内、米国、イギリス、ドイツ、オーストリア、スペイン、イタリア、香港、シンガポール、タイ、中国、ソビエトの各営業拠点を結び「NISSIN」による安くて、早くて、確実なサービスを提供致します。

TORONTO
42 Voyager Ct. N.
Etobicoke, ONT
M9W 4Y3
Tel: (416) 674-0503
Fax: (416) 674-0881

VANCOUVER
12411 Vulcan Way
Richmond, B.C.
V6V 1J7
Tel: (604) 276-9691
Fax: (604) 276-9692



☆一月三十一日
春節 - 中国のお正月

一九九五年は、一月三十一日が旧暦の正月となります。この正月の前には、中国人の家庭では、かまどの祭り、つまり台所の神様にお供えをするという大事な行事があります。

かまどの神様は、その家でのいい事わるい事をすべて一年中見ていらつしやいます。年末は、天にのぼって天上の神様にいろいろ告げ口されると困るので、お供えでご機嫌とりをするというわけです。りんごやオレンジをピラミッド状につんでお供えしているのをよく見かけますが、これは赤や橙色が縁起のいい色と考えられているためです。

『あけましておめでとう』は、広東語で『恭喜發財 Gung Hay Fat Choy』と云います。おめでとう、今年もさらに繁栄あれ、というような意味です。

☆三月十七日
セント・パトリック・デー

アイルランド人の血をひいた者、何のゆかりもない者、皆それぞれ北米のあちこちで行われるパレードを染しみ、緑色の飾りつけをしたり、緑色を身につけたりします。それでもセント・パトリックとはどういう人だったのか、知っている人は意外と少ないようです。

アイルランドの父と言われるセント・パトリックは、実はアイルランド人ではありませんでした。彼は、当時ローマに支配されていたイギリスの生まれで、ある時奴隷としてアイルランドにさらわれました。六年間、羊飼いの仕事をしていました。ある時逃げ出します。後にカトリックの司教となつてアイルランドに戻り布教をしますが、土地の言葉や習慣を知っていたことが役に立ちました。彼は、民間信仰を信じるアイルランドの人々をカトリックに改宗させました。また、彼がアイルランドからヘビを追い出したという伝説もあります。(実際アイルランドには、ヘビが一匹もないのだそうです。)

さて、アイルランドは十九世紀半ばに大飢饉に見舞われ、何十万人という人が国外に脱出しました。その多くが北米にもやってきまし

たが、新しい国でのつらい経験を乗り越えるため結束し、祖国を誇りに思うこの日『セント・パトリック・デー』を盛大に祝うようになったのだそうです。

★シャムロックについて

シャムロックはもともとアイルランド人の間で親しまれていた植物でしたが、それを知っていたセント・パトリックはシャムロックに宗教的な意味を与えました。シャムロックの三つ葉はトリニティー、つまり三位一体(父なる神、子なるキリスト、聖霊はすべて元来一体のもの)を示していると言ったのです。

アイルランド人は昔から植物の神々を崇拝しました。緑は植物の色。つまり、この日は春の間近いいことをつける日でもあります。

寒い冬が早く終わり、早く春が来ますように。



(N・B)



日新トラベル

NISSIN TRAVEL, a division of
NISSIN TRANSPORT (CANADA) INC



出張、家族旅行、その他何でも

旅のことなら日新へご相談下さい

TORONTO 42 Voyager Ct. N. Etobicoke, ONT. M9W 4Y3
Tel (416) 674-7057 FAX (416) 674-0881



日本にも電子メールがただで送れる
トロント・フリーネット・サービス

十一月より、トロントのコミュニティ情報を集めたコンピュータ・ネットワーク『トロント・フリーネット』が発足しました。このサービスを利用するのに必要なのは、コンピュータ、モデム、通信用ソフト(どれもよい)と電話回線。

これだけ揃っていれば、あとはモデムで 416-780-2010 にかけて、guest とタイプするだけ。そこには、郵便局やら、ビジネス街やら、コミュニティセンターなどがあります。まず行政局 (administration building) に行つて指示に従つて登録をします(もちろんスクリーン上で)。次に同意書をプリントアウトしてそれにサインし、郵送します。口座が正式にもらえるまで、一か月ぐらいかかるそうです。

まだ出発したばかりのネットワークですから、あちこち準備中のサインがあります。これからどんどん大きくなるでしょう。最大の魅力は、電子メールを送ったりもらったりが、ただでできることです。日本の親戚や友達と電子メールで、やりとりしませんか。

スノーモービルで
銀世界を駆けめぐる

長い冬、つらいと考えれば、なおつらい。時には、一面の銀世界に飛び出して、美しいカナダの冬を思いっきり満喫したいもの。スキー、スケートに飽きたら、趣向を変えてスノーモービルはいかがでしょう。スピード感と、湖、川、丘など普通なら行けないようなところまで行けるのが、魅力です。

スノーモービルのレンタル料は一日百五十ドル前後。それには、トレイルの使用許可料も含まれます。車の免許があれば運転できますが、ない場合は運転許可証を取得する必要があります。オンタリオ・スノーモービルクラブ連盟(OFFSC)が管理する総距離三万五千キロのトレイルは、地図や標識が完備され、食事、燃料補給所、宿泊施設をつないでいます。トロントからだ、シムコ湖、ムスコカ湖周辺が人気のスポットです。

(スノーモービルのできる場所や宿泊などについてのお問合せは 1-800-263-SLED)



POLA

お客さまがもとめるニースはこの3つ



3 出かけることが
多くなるわ



2 寒いわねえ



1 かさつきがち
なのよ

クリスマススを飾る花々

目に鮮やかなクリスマススの植物。買ってきたものの、この先どのように手入れをしたらいいかわからない、という人のために、少しまとめてみます。

ポインセチア

部屋の中が乾燥しているので、土が乾かないよう注意しましょう。窓辺の日の当たるところに置いて、時々向きを変えるようにします。気温は十八度ぐらいが最適です。春になって葉が萎れたら、花のあった部分のすぐ下をせん定します。

暖かくなり、霜が降りる心配がなくなったらすぐ外に出します。夏の間は水をよくやって、秋は初霜の降りる前に室内に戻します。十月にはいつてからは、夜には光のあたらないよう箱などをかぶせたり、暗い所に置きます。これは、つぼみの生成にとって非常に大切です。つぼみができたら以後は、暗くする必要はありません。



シクラメン

部屋に十五度以下の涼しい場所がなければ、育てるのは困難です。花が終わったら、塊茎（土に半分埋まっている部分）は鉢から取り出さず、外が暖かくなるまで涼しい場所に保管します。五月ごろから、戸外の陰になる所に置き、二週間ごとに湿気を与えます。シクラメンにはこのような休息期間が、冬また花を咲かせるために必要です。八月に入ったら、鉢の土を入れ替え、水を与えます。やがて新しく芽が出てきます。水を与える時は、塊茎に直接水があたらないよう、注意しましょう。



クリスマス・カクタス

冬の間、気温は十三度から十五度ぐらいが最適。窓辺の明るい所に置きます。暖かくなったら、戸外の陰になる所につるし、夏は水やりを忘れないようにし、初霜の前に部屋に戻します。つぼみができるまでは、水を控え目に。



(N・B)

JALPAK TOURS

お問い合わせは下記まで
TEL: (905) 356-6144
(コレクトコール)
P.O BOX 566
NIAGARA FALLS, ONT.
志岐まで



Dr. Seiko Shirafuji D.D.S.
DENTIST

Tel: (416) 490-8238

Fax: (416) 490-8239

2175 Sheppard Ave. E. Suite 208
Willowdale, Ont. M2J 1W8

白藤せいこ歯科医院



日本人の異文化体験

明治初めの世代と

カナダ在住の子供達

マッギル大学準教授 太田 雄三

ぼくは、一九七四年から、モントリオールのマッギル大学で日本史を教えている。教えている科目のせいもあって、ぼくなどは物理的にはカナダに在るけれど、どこまで本当にカナダに住んでいるといえるのかと自分でも思うことがある。

そうは言っても、カナダ生活はいつのまにかぼくを変えているらしい。夏休みに一時帰国すると、税関の職員に、いきなり「今度はどのくらい日本にご滞在ですか」などと聞かれることがある。彼らは一目でぼくが外国に永住している人間だと見抜くらしい。そう言えば、日本への飛行機のなかで、ぼくが日本語の本を読んでいるのを見た日本人乗客に「ほう、日本語がお読みになれるのですか」と英語で言われたりしたこともあった。異文化に対する感受性が薄れた大人として始めて日本を離れたぼくのような人間でさえ、いつの間にかどこかが変わってしまうとすれば、カナダ在住の日本人の子供達が異文化に深く染まっていくのは驚くに当たらない。

最近の帰国子女などを別にすれば、異文化に深く染まった人間をかなり多数生み出した時代は、実は明治の初めのことであった。今日では、日本の大学は、例外を別にすれば、教授陣はほとんどみな日本人で、日本の中でも国際化の必要が最も強く叫ばれている部門の一つだが、明治の初めは違った。東京大学が正式に発足したのは、一八七七（明治十）年のことだが、手元にある明治十二一十三年度の「東京大学法理文学部一覽」を見ると、例えば理学部の正教授として名を連ねている十四人のうち日本人は四人だけである。この一覽中の「諸規則」の中にしばらく「英語ヲ専用シ」とあるところから考えると、日本人教授四人でさえ英語で教えた可能性が大である。東京大学に限らず、北海道大学の前身である札幌農学校などでも同じ時期には主な教授陣はみな外国人であった。今日の状態に比べれば、明治初期の日本の高等教育などははるかに国際化が進んでいたのである。いま「進んでいた」と書いたが、明治初期の高

裏千家トロント教室

新 宗楓 教室

8 Dallington Drive
Willowdale, Ontario
Ontario M2A 2G3

416-493-6776

小さな引越から、大きな引越まで

引越・一般小荷物・納品代行

大切なものを、ていねいに運ぶ仕事は専門です。

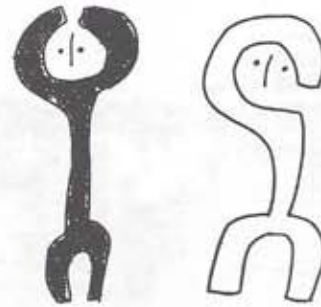
見積無料・迅速丁寧

トータル・エクスプレス INC.

担当：柿沼

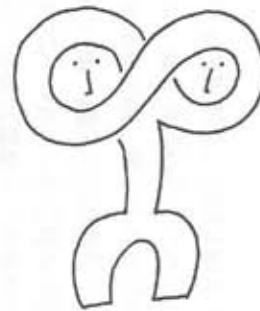
1670 SISMET ROAD, MISSISSAUGA ONT. L4W 1R4
☎ (905) 629-7355 FAX (905) 629-3363

等教育の国際化は、別の観点からすれば、日本人の間に大学で教えるに足りるだけの学力を身につけた人間が不足していて、外国人に頼らなければ、日本の高等教育が成り立たないほど日本の教育が遅れていたことの反映であった。だから、日本が急速に外国人教師を日本人教師に換え、教授用語を英語から日本語に変えることができたことは日本の教育の大きな進歩とも言えた。



しかし、物事のプラスとマイナスには盾の両面のようなところがある。その「進歩」の反面は日本人の語学力の低下、また国際的に通用する能力の低下であった。一八六〇年代初めぐらいに生まれて一八八〇年代前半までに日本で高等教育を受けた人間は、英語がしばしば日本語以上によく出来た。彼らがお互いに交わした手紙も三十代くらいまでは大部分英文であった。そのように異文化を深く身につけることによって、彼らは日本人による英文著作中の古典ともいえるべき作品（新渡戸稲造の『武士道』、内村鑑三の『余は如何にして基督信徒となりし乎』、岡倉天心『茶の本』など）を残し、また国境を越えた活躍（例えば、国際連盟事務局次長としての新渡戸）を示すことが出来たのである。しかし、反面では、例えば、新渡戸

が、見事な英文で書かれた『武士道』などの日本紹介の著作で、日本にいながらまるで外国にいるかのような中等および高等教育を受けた世代の人間としての欠点（日本に対する知識の浅薄さ）を暴露して、いるのも事実である。モントリオールの日本語補習校に通う子供達を見ても、いやおうなしに異文化にさらされることによって得るものも失うものもあるようだ。



しかし、新渡戸の世代が生んだ人物（新渡戸、内村、岡倉、森鷗外など）は概してスケールが大きかった。異文化に深くさらされることによって視野が広がることは人間の生き方のスケールを大きくする力があるのではないか。一八七三（明治六）年に来日して反対の方向から異文化に深くさらされた日本学者チエンパレンは「世界を複数の違った視点から見ると有益なことはない」（拙著『B・H・チエンパレン』、リプロボート、一九九〇年、三十五ページ）と言っている。自国の文化の中だけで生きていったほうが人生は楽かもしれない。それでも、ぼくは二つ以上の文化、二つ以上の言葉にさらして子供の人生を複雑にしてみました。親としての幾分の後ろめたさを感じつつも、深いところではチエンパレンの言葉に共感を覚えるのである。

羽毛布団

夏でも冬でも一年中心地良い羽毛布団。
タッパーウェアの販売も始めました。合わせてご利用下さい。



この広告をご持参
の方には5%
割引きます。



(905) 773-4508
FAX (905) 773-5151
アダチまで

住宅の貸し借り



宮原 一雄 (905) 230-2308
24hrs

215 Traders Blvd E., Unit 4B, Mississauga

さすらい中年、北京に行く

世界のホット・スポット

世紀末にかいま見た二十一世紀の国

高田 たかし



人々で賑う天安門広場



中国は二十一世紀の国だという。

来世紀に経済や産業が発展して大飛躍することだろう。カナダの首相も経済使節団を連れて訪中する位だし、二十一世紀は中国がリードするのだろうか。やはりこれは是非一度行って様子を見たい、と二十世紀後半を背負って立つ筈だった男（小生）は考えた。

それだけでなく、中国はとても気になる国だ。漢字・漢文から、子供の時読んだ孫悟空やクモの糸を登って天国に行こうとする男の話も中国が舞台だ。北京・香港・上海・満州などの地名も、孔子・孟子・秦の始皇帝から毛沢東、鄭小平までの人名もおなじみのところだ。食べる方ではラーメン、ギョーザ、チャーハンから広東料理、北京料理へとつながってゆく。

それにしても伊丹十三さんの映画の「タンポポ」にもあったけど、日本人のラーメンに対する関心は相当のものでありませんか？ ラーメンは中国料理ではないという説もあるけど、ラーメンのうまい店という行列が出来るし、週刊誌ではカラー・グラビア何ページもラーメン屋を特集する。こっちも、四、五年前に丁度鹿児島、熊本、北九州から広島、大阪そして東京とラーメンを食い歩いたことがある。その時のベスト・ワンは……いや、中国の話が脱線しました。



◎『やる気のない』空港

トロントからバンクーバー経由北京へのカナディアン(CP)のフライトは、二十一時間で北京に着く。北京空港の第一印象は、古びた空港だということ、そしてどこか『やる気のない』空港だなアということ。入国審査官はスタンプを押すと、パスポートを投げ返してくる。税関吏は、こっちの荷物を調べようとせせせ、自分達で固まっておしゃべりしている。こっちは、飛行機の中で入国票、税関申告書そして健康状態の質問と三種類の紙を書かされて、どこまで調べられるのかビクビクしていたのに（別に何も悪いものは持っていないけど）こっちに目を向けようともしない。検査用の台の前を「このまま行っているのかなア」と荷物を下げてオドオドしながら通ると外に出たしまった。

今回は旅行者用の北京三泊四日の見学旅行に参加した訳なんだ。眠り男はいなくて、中年一人旅といたいけど、二十六人の団体で、全員がカナダ人なんだ。ガイドはチャーリーという角刈りの青年で、海外に出たことはないという割に、英語がうまい。きっと学校で大分勉強したのだろう。アジア大会の時できたという立派なハイウェーを通過して市内に向うと、高層ビルやホテルがそここに建っている。



自転車で街を行く人々

建築中のビルも沢山あって、北京はビル・ブームだ。市内で一番高いビルは五十七階建てで、日本の資本とのこと。北京市の中心街長安街のホテルに入る。

翌朝は時差のせいもあって、早く起きる。六時ごろ外に出てみると、そろそろ交通ラッシュが始まっている。バス、トラック、乗用車、軽自動車そして有名な自転車の波が切れ目なく走る。リヤカーに野菜をのせて歩いている男や、練炭を荷台にヨロヨロ走る自転車などは、昭和三十年ごろの日本そのままだ。バス停で何でもいからと来たバスに乗ってみる。一元を出すと、車掌が釣銭を八角くれる。料金は二角（カナダの三・四セント）だ。庶民の足はまだ安い。あまり遠くに行かないうちに適当に降りて、歩いて戻る。街角では肉マン、ワントン、揚げパン、小豆スープ、菓子パンといろいろの店が出て、出勤前の人を狙って商売している。自転車を止めて、肉マンを買ってゆく若い女性、路上におかれたガタガタのテーブルに座って、ワントンを食べるオッサンなどいろいろだ。こっちも手まねで小振りの肉マン三個とワントン・スープを注文する。二三元（三十四セント）。ワントン・スープは美味しかった。

◎サギ師から領収書を買う

朝九時市内観光に出かける。故宮は明、清時代の宮殿だから世が世ならば入れないのだけれど、今は毛沢東の大きな肖像が飾ってある下を通って入る（大分若い頃の肖像だけ）。入って第一にピンとくるのは、例の映画「ラスト・エンペラー」で見たところだということ、あの映画の時より大分赤い色がくすんでいる。大宮殿がいくつもいくつもあるが、その中は大体が空っぽだ。乾いた空気の快晴の日だから、喉が乾く。みんなミネラル・ウォーターを買う。小ピンが三元から五元と店によって値がちがう。

タバコの吸い殻を捨てた罰金領収書

財丙
环卫—01—01

No. 1785588

北京市人民政府《关于进一步严厉禁止随地吐痰及随地乱扔乱倒废弃物的规定》罚款收据
(卫生监督员专用)

伍元整

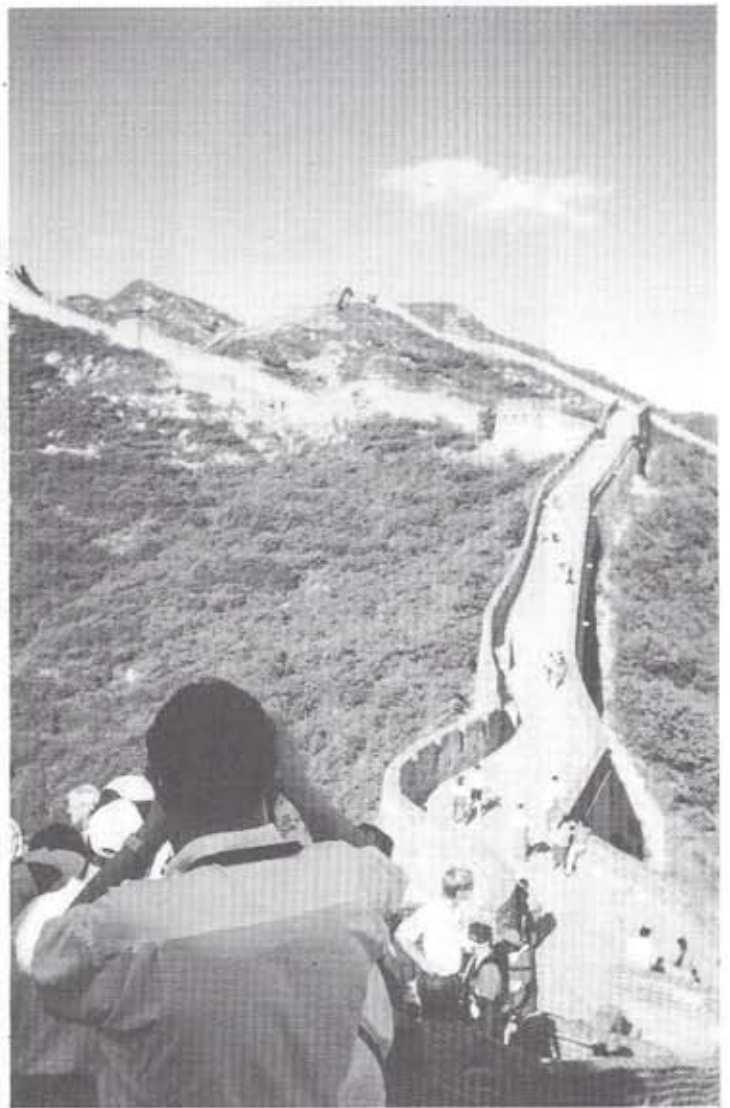
(违章行为: 随地吐痰、乱扔、乱倒废弃物)

(市容监察单位印章)

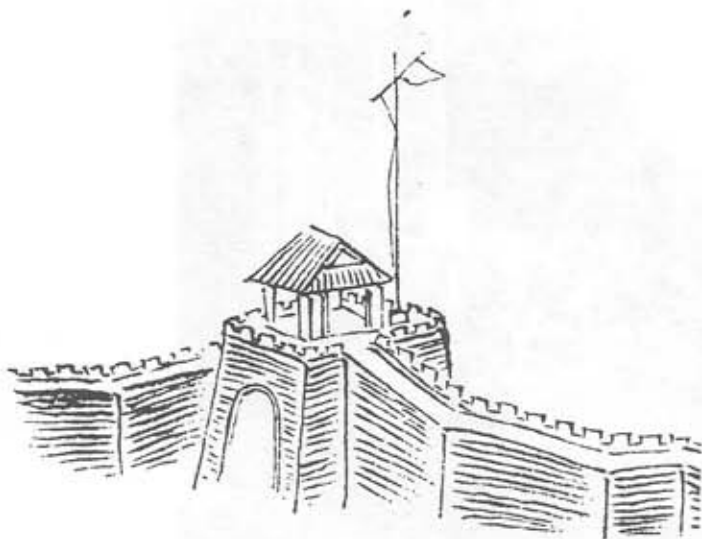
经办人 年 月 日 时

自由経済になりつつある証拠か？団体写真を撮る。そんな所は旅行屋の団体でも普通のツーリストと同じだ。この写真はあとで七十元で買った。

故宮の見物を終えて外に出たところは、駐車場、バスを待つ観光客と車の騒音、立ちならぶ売店の呼び込みの声、バスの駐車係のスピーカーからの音と喧騒を極めている。そして、沢山の物売りが、扇子、絵ハガキ、筆と硯のセット、何とこのか知らないけれど手でクルクル回す玉のセット、自転車のベルまで、かなりしつこく売りつけようとする。こっちは、旅の解放感か、前夜よりタバコをまた吸い始めてしまったのだけれど、紅塔山という名の中国タバコに火をつけて、物売りや客をながめながらバスを待っていたといたします。吸い終わって吸い殻を地面に落として踏み付けたら、突然目の前に中肉中背の目つきの悪い中年男が現れて、何かを話しか



万里の長城にて



けながら、ポケットから出したIDカードを見せるんだ。それにはベキン市何とか書いてあるんだけど、そばに居たガイドのチャリーの通訳によると、「タバコを捨てたのは条例違反。罰金を払え」「いくらか」「十五元だ」

こっちは、うまくしてやられたと、半分は笑ってしまったけれど、もう半分ではカチンと来た。こいつらは観光客を食い物にしている。というのは、故宮の中は全面的に禁煙。約二時間見物した後に、やっと外に出る。待っていてもバスは来ない。一服したくなる。タバコに火をつける。ゴミ箱も灰皿も近くにない。踏んづけて消す。男が出現するという筋骨きになっている。ゴミ箱も灰皿もワザと置いていないのに決まっている。

しかし、ここで十五元(二・五ドル)払わないで、トラブルになって、逮捕でもされたら大変だ。払わ

ざるを得ない。でも、この十五元はきつとそのまま男のポケットに入ってしまうだろう。せめてもの仕返しに、チャリーを通じて領収書を請求したんだ。男はちょっと驚いたようで、ホントに渋々領収書をくれて、人混みに消えてしまったのでした。

◎天安門「広場の孤独」

天安門広場はいまや中国で一番有名な場所ではなからうか。今でもあの事件の緊張が残っているのかと思っていたけれど、行ってみると予想は全然外れ、ホントにここであの事件が？と拍子抜けするほどリラックスした雰囲気のみだった。地方からのお上りさんと一目で分かる着飾った一行や、外国からの観光客(アジア諸国や西欧いろいろ居る)が広いところをそぞろ歩き、カメラを構え、楽しそうだ。ちなみに例の人民服というのは四日間に一度も見なかった。天安門事件は、国内で正式には報道されなくても、地方に戻った学生たちから、その概要は全国に広がったと聞くけれど、抜けるような青空の下、着飾った「人民」を見てみると、経済は発展しているし、西欧の物質文明は流れ込んでくるし、忘れられてしまった過去ののだろうか。

それとも、表面は平静で穏やかでも、国民の中には大きな不安がわだかまっているのだろうか？広場に何かその答がないだろうか、こっちは時差で疲れて来た頭で、考えながら広場の孤独を気取っていたのでした。

◎万里の長城「サティフィケイト」を

三カ国語で発行

この旅行の目玉の万里の長城の、急な階段をハァハァ言って登ると、一応頂上の上になっている所がある。こっちは普段の運動不足を反省しながら、よし、あそこまで、あそこに着いたら一休みしよう、と息切れしながらたどり着くんだ。



北京市内の新旧のコントラスト

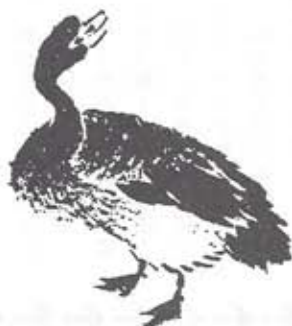


ところが、中国の資本主義化の波は、ホッと一休みなんて甘いことを許すほどなまやさしくないんだ。頂上と言っても、勿論その先あと九千九百里ほど行けるわけで、そこは通路でもあるわけだけれど、巾四メートル位のところに、横長のテーブルを並べて、通路の半分位を占領して『登頂証明書』を売っている。印刷されてある証明書に自分で名前と日付けを入れると、スタンプを押してポラロイド写真を取ってくれて、プラスチックのカバーをして、四十二元という代物なんだけど、その売り子の女性がすごい。白人とみると『サティファイケイト、サティファイケイト』と英語で、日本人とみると『証明書、証明書』と日本語で、中国人とみると中国語でと、三カ国語を駆使して携帯マイクでガナリ立てるんだ。頂上をめざして人はどんどん登ってくるけれど、それでなくとも狭いところに『サティファイケイト』では、ホッ

と一息もつけないわけなんだ。万里の長城を半里位登っても、一生の偉業を成し遂げたわけではないと、こっちは早々に(もちろん買わずに)降りて来たけれど、結構買っている人もいる。一日に何百人かには売れるだろうから、と計算すると、良い商売だ。いや、ポロイ商売だ。この場所で商売しているのは一軒だけだから、特別許可をもらっている筈だ。ポラロイドやラミネート熱処理の「ハイテク」使用の新商売もその裏では私権をめぐるって、黒いディールがあったのでは?と考え始めると、たかが証明書でも少々キナ臭い。その辺が、中国的資本主義の将来の問題を象徴してるのでは……と言えなくもない。

◎レクサスと練炭自転車

二十世紀末にチラリと見た来世紀の国は、練炭を運ぶ自転車とトヨタのレクサスが並んで走り、高層ビルだけでなく、いろいろな分野で投資が盛んで、経済は活発、生活水準も上っているようだ。しかし新築コンドはトレントの三倍位するし、インフレは進んでるし、新しい持てる者の階層の出現や外国資本の流入など舵取りは容易ではない気がする。インフラストラクチャーの整備には、まだ時間が掛かるだろう。二十一世紀になってもう一度訪ねてその発展ぶりを見たいと考えたのでした。



公共料金に

厳しい国民性



上崎正則

—特派員の眼—

カナダに住んで有り難いと思ったことの一つに

物価の安さがある。今年三月トロントに赴任し大型スーパーのロブロウスへ初めて買い物に行った時、値段が東京の三分の一ぐらいに感じたことを今でも思い出す。私はカナダドル建てで本社から給料をもらっているのですが、最近の円高メ리트はあまり関係ないが、それでも実質所得が東京時代に比べて格段に上がっていることは確かであろう。

ところで、カナダ最大の電力会社、オンタリオ電力公社は、先ごろ、平均一・四％の電気料金値上げを州政府に申請したが、却下された。理由は「物価上昇を招くため」だった。三百三十億カナダドル（二兆四千億円）もの負債を抱えているのに、である。同公社は観念したか、平均〇・七％の企業向け電気料金引き下げ、一般家庭向けの料金据え置き、コスト減らしのための社員大幅解雇（千二百一十五人）をきめた。

一方、カナダ郵便公社（カナダ・ポスト）も普通郵便料金の四三セントから四五セントへの値上げを連邦政府に申請したが、同じ理由から「待った」がかかり、この原稿を書いている十一月十七日現在、値上げ凍結が解除されたという話は聞いていない。

カナダ国内の消費者物価上昇率は春以降、たばこ税減税の恩恵もあって、年率〇・二％程度の超低率で推移している。これはもちろん、先進七カ国（G7）では最低水準。これに対し電気料金値上げ要求は一・四％、郵便料値上げは四・七％と世間相場を大きく上回る。「物価がほとんど上がっていないところへ、公共料金を上げるのはマズイ」と、お役所がバランス感覚を発揮したようだ。あるいは、納税者の意向を極端に気にする政治家の意図が働いたのかもしれない。

いずれにしろ、日本人である私にとって、この相次ぐ公共料金凍結は意外だった。物価がカナダより大幅に高い日本ですら、お役所（特殊法人を含む）が審議会なり懇談会の意見を建前上聴いた上で、たいていは申請通りの値上げが決まってしまうからだ。

もっとも、最近は何れも例外があった。高速料金や郵便料金といった多くの公共料金値上げが今年予定されていたが「民間企業が血のにじむようなリストラをやっている時に何だ」「せつかくの所得減税効果が台無しになる」などとマスコミがキャンペーンを張り、財界も相次いで値上げ反対を表明これを受けて、羽田前首相が、一種のパフォーマンスで「年内凍結」を決断した。だが、政権が交代するや、年明けから相次いで値上げ凍結が解除されようとしている。

ほとんどの日本人が、「お役所が言うのだから仕方ない」とあきらめの心境になるのは、「お役所が言うのだから間違いはないだろう」という心

境が働いているからではないか。しかし公共料金の決定システムは、通常、外からはうかがえない「ブラックボックス」になっている。ひょっとしたら、このブラックボックスに間違いがあるのかもしれないのだ。例えば、特殊法人は業務の割に人が多すぎ、その人件費が国民にツケになって回ってくる、あるいは、予算獲得のため必要以上に事業を行い、料金値上げの原因になるということによく指摘されることだ。

日本で公共料金値上げの是非が議論された時、「特殊法人も民間のように経営努力をさせ」という話が盛んに出たが、それは一体どこへ行ってしまったのだろうか。既にその問題は忘れ去られてしまったかのように。料金値上げが妥当かどうか、国民が審査できるようにするにはカナダのように情報公開法の制定が不可欠だ、もしそれがかなわないのであれば、政治家なりお役所なりがバランス感覚を働かせ、更に料金値上げの前に人員合理化もいとわなかったオンタリオ電力公社のように、せめて「経営努力」を目に見える形で示してほしい。



インフレ懸念は 行き過ぎか？



水谷 雅和

先日、同僚との話の中で日本の円高差益還元について話題になった。その時、彼曰く、「最近日本のマスコミが『価格破壊』という言葉を使うが、今日本で起こっているのは、『価格破壊』ではなく、あくまでも消費者にとっては『価格正常化』の動きなのではないのか。」

確かに、日本ではいわゆる内外価格差が一向に縮まる気配がなかったが、このところの円高を背景としてこれまでの価格体系を根本的に崩していく動きがあらちちらで見られるようになったことから『価格破壊』という言葉が多少センセーショナルな意味でも好んで使われるようになったのである。事態は彼の言うように今までは高過ぎていて、それが正常化されていく過程と見た方が正しいのかもしれない。

ところで今年の金融市場はアメリカのインフレ懸念に揺さぶられた一年であったと言っても良いであろう。昨年末のクリスマス商戦の好調さもあり、アメリカ経済が年率換算で七%以上の成長を示したことから、今年に入り連邦準備理事会が政策金利の引き上げを決定、それを契機にオーバーナイト金利三%の時代に終止符が打たれ、それ以降引き続き好調なアメリカ

経済を背景に金融市場のインフレ懸念と政策金利引き上げの追いかけっこが始まったのである。長期金利の上昇は世界各国に飛び火していった。カナダもその例外ではない。貿易額の八割近くをアメリカに依存しているカナダにとって、サウスポーターの景気回復は有り難い材料に違いないが、それだけ密接な経済関係は裏を返せば、金利も上昇、それだけでなく財政状況が厳しい中、対外債務の利払い増加やモーゲージ金利上昇などの影響を与えている。

もちろん、今年始まった債権市場の動揺はそう簡単には鎮まるとは思われないが、この先本当にアメリカを初めとして、インフレは進行するのであるか。現在の市場で『インフレ懸念』だけが多分に先行していると見るのは楽観的なのであるか。

アメリカの設備稼働率はほぼフル操業に近い数字を示しているが、消費者物価レベルでは未だ価格転嫁の動きは顕著に見られていない。世界的に見ても、少なくとも先進国では生活に必要なもの、余暇に必要なものは大抵揃っている。買い替えの需要はあるかもしれないが、あつと驚くような技術革新が行われ、それによって大規模な需要が喚起されているとも思えない。

八十年代に経験した二ケタ金利時代は今世紀中には訪れないと言えるのではないだろうか。

今や実需の取引額の約三十倍とも言われるインフレ懸念、金利上昇の影におびえたマネーフローがとてつもなく大きな力となり、北米市場から欧州や日本へさらにアジアや中南米へと流出していった結果、さらに長期金利の上昇を引き起こしていったのが今年の金融市場なのである。まさに一國の金融政策だけではこの移り気なマネーの流れをコントロールできないようになってきたことの証左である。

日本では冒頭のような低価格化の動きは暫くは続くのではないだろうか。それは日本特有の動きとは言え、世界的な需要不足の状況とは決して無縁ではないのである。

(カナダ東京銀行V.P.)



プルマージ
美容室

960-0335

予約はユミ子まで

110 Bloor St. W. Lower Level
(地下鉄 BAY 駅下車)
CUMBERLAND EXIT すぐ

冬の風物詩

娘のスキー

カルガリー市

北村 恵理

ここアルバータ州の冬は季節を一つ飛び越えていち早くロッキーの山々から始まる。まだ夏の名残りの九月、白一色に変貌していくロッキー連峰をカルガリー市の住宅街から遠い西の空に垣間見ることが出来る。多くの人が「又、長い冬が来る」とおもわず溜息をもらすのもこの頃だ。が、しかし人は様々なもので、我娘は「山が白くなった。もうすぐスキーができる、キャッホー。」と喜々として叫ぶ。

いらしく「すごい滑り方ですね」とか「息子はお宅の娘さんの後から滑るとスリル満点、命がけコースで楽しいと言うんですよ」とか言われるが、初心者向コースから上に登れぬ親たちは、娘のスキーをまともに見たことがなく、不安気に下界から屋根を見上げるのみだ。本人もわかっているように遊びで行く時は「怪我をさせたら悪いから」と女の子は誘わず、スキー仲間が男の子だけ、これが又心配の種だ。それに、スキー場までの雪道の運転もと親は気を揉むばかりだが、それでも数年前の、眠れぬ夜もあった葛藤の日々を思えば、お



だやかに過ぎる今日をよしとしなければなるまい。

娘が十二才の頃、日本語学校をやめて、土曜日一日のスキー学校へ通いたいと言いだした。自他共に許す運動神経超欠乏症の親たちはこれを速、日本語の勉強から逃れるための娘の口実ととった。「ダメダメダメ。貴女は日本人だから日本語をやらなくちゃならないの。スキーは日曜半日で沢山。中学校を卒業するまで絶対だめよ。」この日から、「子どもに日本語を習得させる」を金科玉条とする親と、「私はカナダ人」と言い張る反抗期真盛りの娘との果てしない闘いが始まった。口論は四六時中続き、ことに金曜の夜は「宿題をしなさい」「嫌」の修羅場と化した。今に思えば、よく壁に穴も開かず、ドアも壊れなかったものだ。おだて、なだめ、おどし、すかし、土曜日の朝ようやく学校へ送り出してホッとするのも東の間、又翌日からの阿鼻叫喚。と書くのは少々オーバーだが、振り返れば今でも聞こえてくるような気がする。そのうち娘は、日本語はもちろん、あらゆる物事を否定し始めた。とうとう親が折れた。

娘は今、大学で自ら選んで日本語の講義をとっている。「日本の自然についてのレポートが宿題なの。ママ、手伝ってくれる?」。これを至福の時と言うのだろうか。全てのことにはあるらしい。娘は働いて、今年新しいスキーを買った。思かな母親は、「ハラハラ」に長い冬の気を紛らわせながら、雪解けの春を待つ。

「中年の冷や水」とからかわれるのを承知で申し上げると、最近絵が嫌いでない。元々絵を見るのは好きで、特に旅先では美術館に足を向ける事が多い。それに数年前から多少の「制作」努力が加わって、なんとなく理解の中が広がったような気がする。

まがりなりに絵筆（水彩）を握ったのは十五才までで、以来三十年余り完全に忘れかけていたのであるが、ある日戸棚で息子が昔使っていた油絵具セットが眠っているのを発見し、イタズラをしているうちに秋の夜長とつき合うメディアと化してしまったようだ。

油絵そのものは全く初めての体験で、たとえば乾燥がやたら遅いの戸惑う位何の知識もなかった。先生に習った方が早道なのだろうが、長続きするかどうか判らない実験に投資する気も起きないし、時間も無いということで自己流トレーニングを考え出すことにした。つまりカレンダーや名画集をめくって描きたい図柄を選んで模写することからスタートしたのである。いうなれば「高級」ぬり絵と思えばよい。月一枚平均のペースで取組み、印象派のモネ、ドガ、シスレー、セザンヌ等々の小品をトライし、その再現に四苦八苦を繰返す。当初は似ても似つかぬ「模写」が出来てしまい、自分でも面食らうこともあるが、十枚も描くと油絵のイロハがそこはかとなく判ってくる。何せ私の教授陣は印象派の大御所という豪華キャストである！

模写をしながら感じるのはいさした作者の卓抜した技術だ。勿論そのすべては私のようなアマチュアには判らないけれど、たとえば遠近法の処理の見事さがあげられる。シスレーの田園風景ほどの絵も小ぶりなのに、窮屈さを全く感じさせない大

きな広がりを持っている。構図の取り方が巧みなものであろう。又色の処理でも遠景は多量のオフホワイトを使用し、近景の鮮明な色と対比させたりする。又印象派の作品の多くはカメラのレンズのように焦点を合わせたり意識的にボカしたりして絵の切れ味を出しているようだ。つまり作者の描きたい所は克明に描き、その他はファンタジーに処理して、その区別が必要にして十分というか全く無駄がない。その辺に日本の浮世絵の影響があるのかも知れないし、印象派設立当時のパトロン

某月某日

セザンヌを模写して

想うこと

半田 宏治

がパリの写真館のオーナーであったという事で写真の技法も入ったのであろう。

トロントでバインズ・コレクションが催されている。その大部分は印象派の作品である。八十点もの出品数は決して多いとは言えないが、かなり質の高いコレクションで、個人で収集したとは思じ難い。バインズ氏の執念というかエネルギーを感じさせられる。

その中で特に一点引きつけられた絵がある。セザンヌの水指しと果物の静物面だ。くすんだ壁紙

を背景に白い水差しとリングとオレンジが燃えるように鮮やかな色彩で表現され、その脇にサビの出た果物ナイフがそえられている。何故か懐かしい思いにかられた。その理由があったのである。全く同じ絵ではないけれど、一年前カレンダーから模写した静物画とほぼ同じ題材（水差しと壁紙）を描いていたからだ。きっと同時期にシリーズで描いたのに相違ない。

確かに模写から学ぶ事は多いのだが、やはり自分のオリジナルの絵も欲しい。ない事はないのだが、模写に較べると数は少ない。その理由の一つはデッサンがしっかりしないと絵は描けないということが判かって来たからである。そこで今年から一念発起してデッサン教室に通い出している。デッサンはいかなれば白と黒だけの世界だからそれだけゴマカシが利かないとでもいえるのだろうか。文字通り光と影の追及である。

トロントから毎年フランスに出掛ける写生グループがあると聞いた事がある。田舎をノンビリまわって写生し、時々専門家の指導も仰げるらしい。旅の終りには参加者による品評会まであるそうだ。実は私もいづれこうした旅に参加したいと思っている。

日頃ビジネスにしろスポーツにしろギスギスした競争につきり切っていると、何か大事なものを忘れてやしないかとここ数年考えていた。自動車や航空機の高速度ではなく徒歩で身の回りの世界を見る。コンピュータやカメラの高度技術に頼って記録するのではなく、まがりなりに自分の眼と手で表現するといった人間本来の手法を実は戸棚に埋もれていた中古の油絵具セットが思い出させてくれたようだ。息子に感謝しなければいけないと思う。

小出まみ・名寄短期大学教授 に聞く

カナダの子育て・日本の子育て

聞き手 穂積 由利子

小出氏は、もともと社会学専攻で、婦人の問題を扱っていた。そのうちに自分が子育てをする経験する中で、子供を育てる親がどのように成長し、悩み、仲間をつくるか、子育てをめぐる女性に興味を持った。カナダは人権問題では世界をリードする国、子供の人権についても同様である。そのカナダの福祉について、今回四度目の調査のためにトロントを訪問された小出氏に、日本の子育て事情と比較しつつ、カナダで見たことを語っていただいた。

一九八六年にカナダに最初に来たときには、子育ての風土、子供と親をとりまく社会的な環境が日本とすごく違うと思いました。これは、一カ月の滞在で、いろんな方を尋ね歩いたりホームステイをしたりした中で感じたことで、一番大きな収穫でした。二歳半ぐらいの小さいうちから家庭にこもらないで、プレイグループを組織して、「交替で子供を見る」という子育てが奨励されていることなどは、この時に見ることができました。日本の子育ては「密室」とか「孤立」という言葉で表現されますから、明らかに違う雰囲気を感じて帰りました。



二番目に来たときは、子育てにおける「支え合い」の仕方を見ようと目標をしばって来ました。いろんな形のサポートグループの中で印象深かったのは、母子家庭では男の大人の役割を見せる

必要があるということ、ビッグブラザーというものがあることです。十八歳以上の男性が子供にふさわしい組合せのもとに子供を定期的に訪問して野球をしたりキャンプに連れていったり・本当に多種多様な支え合いがあることにものすごく感動したんです。

その時見たのは、リンゼイとピーターボロ、トロントの一部でしたが、「チャイルドケア・クライシス」という本で支え合いの動きは北米全域の動きだと知りました。この本は、家庭の保育、保育園での保育、預かり保育、企業内保育所など、いろいろな保育について書かれているんですが、北米で支え合いが非常に発展しているのは、移動性が高くなって祖父母の支えが得られなくなった結果だとありました。

カナダの子育てを「支え合いの子育て」という言葉で表現すると、日本の子育ては「孤立と密室」という言葉になると思います。育児ノイローゼ、母子心中など、日本の子育てについてまわるものがなぜこちらではないのか、保育の関係者に聞いたんですが、育児ノイローゼという形では議論になっていないようでした。

日本では住宅事情もあると思いますが、一人を預かったり預けたりはしても、数人を交替で見るということはないですね。子供に対する親の距離の置き方、自立した子供として育てていく考え方が違うんだろうなと思います。

非常に印象深かったのは、政府が出している「新しく親になる人のためのガイド」というパンフレットがあるんですが、この第一章に、「テイク・ア・ブレイク・フロム・ペアレンティング」ということがいきなり出て来るんです。四六時中親



をしていてはだめで、自分が成長するためにも、休みをとって自分がハッピーになっていることが大事だという。日本だったら、これから親になるんだからいっしょけんめい責任持ってやらなきゃだめ、というようなお説教が出てくるんです。

そしてブレイクのとり方が、一つ目は、五時以降にパートナーが帰って来たらパトナツチなさいと。日本とは違って、パートナーが五時に帰ってくるということなんです。二つ目は、ベビーシッターをうまくつかって自分の時間を作りなさい。三つ目は近所の同い年の子供を見つけてその人たちとブレイグループを組織しなさい。とこれが第一章に書いてあって、非常に感激しました。それからベビーシッターというのも、その支え合いのひとつであると思いました。ティーンエイジャーがベビーシッターをすることで、地域や家

庭から大人になる機会を与えられ、また小さい子を見ることで、その家庭が息抜きする機会を与えているという支え合いですね。それが地域の中で世代から世代へ次々と伝わっている。

子供は十三歳から出来るベビーシッターでくつと大人になって、それから十六、七でキャンプのカウンセラーを目指して自分を高めていって、親から離れていく。そういうイニシエーションが社会の中に働いているんですね。今の日本には、そういう意味で昔の日本にあった通過儀礼は無くなってます。カナダの子供は、『今年は十二歳だからお母さんがいっしょに留守番してくれるけど、来年はぼくがベビーシッターをやるんだ』というふうな、十三歳をひとつの成長のステップとして明確に意識していて、それを面白いと思いまし

た。

ベビーシッターの講習は私も一緒に受けました。男の子と女の子がいっしょに受けているのを非常に興味深く見ました。五年くらい前に、名寄(女子)高校生徒が、名寄の姉妹都市のリンゼイという町の高校生たちにアンケート用紙を送って、ベビーシッターの調査したことがあるんです。それで見ると女の子が九割、男の子で八割体験がありました。

ところが名寄(男子)高校で調査すると、男の子で乳幼児の世話をしたことがある子っていうのは皆無に近いんですね。女の子はもう少し多く経験してましたが、生活科学科に入ってくる私の学生を見ても、三、四歳の子供がどんな話し方をするか、知っているのは一割いるかないかです。だから実習に行くと、どんな言葉を使って話したらいいかわからなくて、「糊ではります」じゃなくて、「固定します」と言ったり「左と右を交互に」と言ったり。こういうことが、十年後に、子育てを暖かく見守る社会か、うるさいガキと見る社会か、という社会の違いになって来ると思っています。

日本で禁煙車が出始めた時に、「そんな勝手なことを言うなら禁煙車をつくれ」という声が出たことがあったんですが、日本はそのくらい子育てに冷たい社会なんです。こちらでは、若い人でも、子供はかわいいけど三時間以上しゃべらない、お母さんも一日中しゃべらないだろうな、と言うんですね。そんな言葉日本では出てこないですよ。

この時の経験から、カナダの支え合い、その中でも障害児を持った家庭の支え合いがすごいから、それを見ようということで、三度目に仲間を誘っ

て来ました。それを本にまとめたのが「サラダポ
ウルの国力ナダ」です。障害児だけでなく、保育
・発達、高齢者に興味のある人たち十二人で来て、
ピーターボロという中ぐらいの町に十三日間滞在
して、ていねいに見ました。私たちにとっては大
きな声で叫びたくなるような感動でした。

そしてこの背景にあるのが多様な文化主義という
違いを認めるという政策で、これが人種や文化の
違いだけでなく、障害を持つ人や、母子家庭など
も、そういう違いを認めることにもなるんだと分
かって来ました。

今回の滞在は、日本の現代社会の問題でカナダ
の社会から学ぶというテーマで、在宅の子育てを
支えるセンター（ドロップインセンター）の調査
のために来ました。

日本では今、家庭での育児が混迷の状態にあっ
て、厚生省が保育園の園長に子育て支援をしろと
働きかけているんです。でも今まで日本の保育関
係者の中には子育てを支えるという考えがありま
せんでした。十八歳で子供を生もうが、親になっ
ただからこのくらいわかるでしょうという意識
があったわけです。

ここに来てみたら、ある時は食事づくり、ある
時は経済的なこと、ある時は離乳食、というよう
に、どんなことで負担になってもそれを支えると
いうことで、支え合いが多種多様なのに本当に驚
いています。それと、ドロップインセンターとい
うのはふらっとやって来て、好きなようにくつろ
げる場なんです。出合いの場になっていて、職
員の人が指導したり教えるんじゃないで、そこで
いろんな人に会ってお母さんたちが解決の方法を
インフォーマルに見付けていく。家庭での子育て

や家庭での子預かりを支えるというものです。

厚生省が子育て支援を言い出した一番のきっかけは出生率の低下で、一・五七まで下がったときに、一・五七ショックと言って、このままでは人口再生が追い付かなくて日本の経済が先細りということだったんですが、それが打つ手がありません。全国では一・五で、東京では一・二五を切りました。

背景には住宅事情もあるし、教育事情、受験地獄、教育費の高さもあるけど、それ以外に、大学を出てキャリアを持った女の人が、子育てという形で人生をがらりと転換することに絶えきれなくて、生むことを拒否する傾向は否めないと思います。政府は高学歴や女性の就業率の高さを攻撃しますが、そんな理由じゃなくて、サポートのない孤立した子育てではやりきれないという人が、子育てを拒否するというかたちでストライキしているわけです。

また、日本は母性神話が異様に強い国で、子育てを母親任せにしておくのに疑問を感じない国だったということも流れとしてあります。それが象徴的に出たのが、久徳重盛という小児科の先生が書かれた「母源病」という本で、子供の病気の六割が「母親が病原菌」であるというショッキングな言い方で、子供がうまく育たないのは母親のせいなんだと言われたことです。たちどころに、三十刷り以上になって、「続々・母源病」という売れ方をしました。フェミニストたちからは、父源病だというような切り返し方がありますが、マスメディアも男性の世界ですから、あまり大きくはならなかったです。

でも、ここ数年はお母さんたちを単に押さえ付けることでは押さえきれないくらい、お母さんた

ちの不安、不満が広がってきて、最近ではどうしようもなく子供をたたいてしまうという発言をする人も出ています。数年前橋由子さんという人が「子供に手を上げたくなる時」という本を出されたんですが、マスコミが興味深くとり上げたというところで、時代の流れが変わってきたと思います。子育ては大変だと言うことがタブーでなくなつて、どうしたらいいのかということが、具体的に議論される時期になって来たと思います。

日本は国際比較でも子育てを楽している比率が非常に低いです。どうして子育てをするのかという答えに、楽しいからと答えた人がフランスでは八割、日本では二割です。子供の方でも、親に対する信頼といった親との関係を示す項目が際立って評価が低いです。家庭が楽しいかという評価も非常に低い。（十五歳対象の一九七九年の国際児童年の調査）政策担当の中に女性が入っていませんから、事実としてはずっと前に分かっていながら、打つ手が打たれていないんですね。

男性を働かせすぎて過労死させるような社会は、一方女性には在宅で子育てをしなければならぬというのと裏表の関係ですから、日本経済そのものに根を張った問題で簡単には変えられないと思います。

でも、家庭科の男女共修もようやく今年から中学、来年から高校がスタートしますし、男性の育児休業は去年の春から施行されました。まだとる人は新聞種になるくらいめずらしいですが、世界的に見れば非常に遅れているのですが、国連の女性差別撤廃という動きにに合わせて、少しづつ変わって来ているのが日本の実情ですね。

* * *



日塔富夫の「映画」エッセイ

ツリーハウスにかけける夢

ーベトナム帰りの父と、子供達ー

ザ・ワー

THE WAR



ピッ、ピッ、ボウーン、ピコ、ピッ、

ボウーンと単調な音の繰り返し、スクリーンに映し出されてくる幾何学的物体、コンピュータゲームのそれらを相手に一人部屋にこもり、何時間も遊ぶのが現代の子供なら、この映画には青空の下で泥にまみれて躍動する子供達の姿がある。

アメリカ南部の片田舎、大きな空の下にはとうもろこし畑、コットン畑が広がっている。そしてその一角に、これまでとてつもなく大きな木がそびえ立っている。地上一メートルのあたりから枝わかれた太い幹はまるでタコの手足のように四方八方にくねくねと伸び、それはまるで大きな建造物のようでもある。そしてその大木のまわり



に集まる数人の子供達。

二人共まだ十代の初めの姉と弟。二人の父親はベトナム戦争の後遺症に悩まされている。激戦地での殺し合い、傷ついた戦友を置き去りにして飛び立ったことへの罪、そして長い間の家族との別離、それらが彼の精神をずたずたにしてしまったのだ。そんな父親の悲しみを理解し、家庭にとけこませて救おうと努力する姉……

大木の木の下に集まる子供達には別の世界があった。姉と弟の仲間のグループともうひとつの悪ガキグループがあり、それらがいつも小競り合いをやっている。悪ガキグループには腕っ節の強いのがいて殴る蹴るの荒っぽいことをやる。そんな話でいつもどちらかに生傷が絶えない。姉と弟の仲間は大木の上にツリーハウスを作り始める。材料はすべてがらくた捨て場から集めてくるのだけれど、それにも計略がいる。なにせそのがらくた捨て場は悪ガキグループのテリトリーなのだ。一番年下の子供を数セントで買取して少しずつ材料を運び出す。そこには乗用車、

トラック、トラクターのタイヤ、冷蔵庫、家具など、あらゆる種類の廃物が山のように積まれており、ツリーハウスの材料にはことかかない。

その頃、父親は父親で社会とのあつれきに苦しんでいた。家族をサポートするべく仕事を探すのだけれどなかなかうまくいかず、時にはベトナム帰りのということが障害になったりもして、結局農場の日雇い人夫に甘んじるしかなかった。それでも何とか自分の妻と子供達に報いようとする決心をした彼は、より多い収入のある危険な仕事に従事する。

ところでこの映画を見て思ったことは、子供達の遊びの形がすっかり変わってしまったことである。昔は自然のあらゆるものを材料にして子供達は遊びを作り出したものだけれど、現代はずいぶん自然離れをしている。いや、遊びそのものが経済のしくみに絡み込まれてしまった感じがしないでもない。次々に売り出される魅力的な玩具やコンピュータゲーム、そしてそれらを手にした時、市場には新しいものがより魅惑的においでおいでをしているのだった。

ようやくツリーハウスが出来上がる。自在に伸びた枝と枝に横木を打ちつけ、その上に作られたハウス。ゆがんでいたか、かしいでいたり、がらくたの原形がそのまま生かされている。ところがハッパン、悪ガキグループに材料の出所がばれてしまったのだ。難癖をつけられ、ある取り引きの結果、所

有権をとられてしまう。

その頃、父親は足場が水の中という横穴で工事作業をやっていた。突然岩盤が崩れ落ち、一緒に働いていた黒人の男がその下敷きになってしまふ。ベトナムでの、戦友を置き去りにした罪を背負い続けている彼は必死で助けようとする。大きな岩がやと動き、男のからだに自由になった時、別の岩盤が崩れ落ち、彼を直撃する。

姉と弟は途方に暮れる。そしてその悲しみを外の世界に爆発させる。戦争だ。悪ガキグループからあのツリーハウスを取り戻さなければならぬ。そうすることによって、また、いつも向かうことによって自分を守らなければならぬ。今二人に必要なのは自分からの行動だった。

ツリーハウスの上の悪ガキグループに対しての奇襲作戦が始まる……
二人の父親をダンス・ウィズ・ウルヴスのケビン・コスナーがやっつけて、今度の役柄はとてつもなくかえめなもの。

話は映画からそれるけれど、最近ツリーハウスという本が出版されて、その中にいろんな形の、とても個性的な家(?)の写りが載っている。あるものは鳥の巣のようにも見えてほほえましい。僕自身、今はアパートに住んでいるけれど、ツリーハウスは僕のドリームハウスなのだ。

(イラストレーター)

おもいででのゴルフコース



*カンガルーとオウムが勝負を見物

ーブリスベンのゴールド・コースー

端崎市郎シャープ・エレクトロニクス・

カナダ社長

今年五月カナダに来る前は、オーストラリアに八五年からおりました。気候も温暖、自然も豊かなオーストラリアでは一年中ゴルフが出来ます。ある週末、同業の電子業界の人たちとクイーンズ州のブリスベンに近いヤトゥーンにある岩崎産業のリゾート・ゴルフ・コース、ゴールド・コース

に行きました。朝早くコースに出ると、一番ホールのティーオフにカンガルーの家族が五匹並んでティーショットを見物しています。多分食べ物でも買えると思って待っていたのでしょうか。

邪魔になるので、某社の社長がドライバーで押し除けようとしたのです。そうしたらカンガルーが腹を立てて、一番大きいカンガルーがその某社の社長を叩きつけたのです。社長はワッと逃げました。その大きいカンガルーは前の方で丁度ショットをしようとしていた別の某社の社長のところへピョン、ピョンと飛んで行って後ろから肩をチョン、チョンと叩いたのです。

「誰だ！邪魔するのは！」って社長が振り向いたら大きなカンガルーがいた！おかしかったので私はそのシーンを写真に撮りましたら、「バートナーを助けないで、写真など撮って冷たい」と言われました。

ユーカリの樹がいっぱいある広々としたリゾート・コースで、他のホールでもカンガルーがお手並み拝見と見物しています。

シドニーの北西、ニュー・サウス・ウェルズ州のリバーサイド・オークのコースはPGAが行われる有名なコースですが、ここにはゲラーという白い大きなオウムがいます。ユーカリの木に止まって見ている、ミス・ショットなどすると、えらい大きい声で笑うんですね。たまたまミス・ショットと笑うタイミングが合ったのかもしれない。そういうわけで、自然に包まれ、鳥や動物に囲まれて、楽しくゴルフをすることが出来ました。

オーストラリアはグリーン・フィーが安く、二〇〇三〇ドルくらいで出来ます。リバーサイド・オークでもパーベキューの昼食、カート付きで七五ドルくらいでした。会員権もカナダに比べるとずっと安く、二千ドルくらいでした。ただカナダはパブリック・コースの芝生がよいですね。

*サンパウロの三つのゴルフ・コース

ーお客のブレイに賭けるキャディ達ー

佐藤哲二カナダ三菱商事E.V.P

八六―八九年駐在していたブラジル、サンパウロではサン・フェルナンデス、サンパウロ・カントリー・クラブ、PLカントリー・クラブの三つのゴルフクラブの会員でした。この中でユニークなのはPL教団が経営するPLカントリー・クラブで、三百人の会員中二九九人が日本人で、たった一人だけブラジル人がいた。クラブハウスは日本食、日本風呂で、ブラジルにすることを忘れてしまうようでした。違うのはキャディが大勢いることで、週二回行くと専属のキャディが待っている。キャディ同士が賭けをする。我々よりも大きい金額を賭けるのです。したがってブレイヤーよりキャディの方が必死で、うっかりバットを外すと怒られてしまう。キャディ達はコースをよく知っている、彼等のアドバイスに従って打つと、大体シングルでうまく行きます。

地方のコースに行くと、池が多くワニが出てくる。ボールが池を越えて草むらの中の石にバン、と当たった。石に当たったのには音が少し違うぞ、と近付いて見たら、ワニにぶつかったということもありました。

ブラジル人はゴルフは余り熱心ではありません。夢中なのは日本人と米国人です。またブラジルは治安が悪く、有名なコースでも、塀を乗り越えてバグラーが侵入、ガン・ポイントでブレイヤーから金を奪う事件がありました。

*ヘビ、サル、カラスが出没

ー百年の伝統を誇るマレーシアのロイヤル・

セランゴール・ゴルフコースー

田中和夫トロント総領事館領事

前任地マレーシアは経済成長が年率九%、リク

リエーション施設もそれに見合った新しいものが入り込んでいます。今夏カナダに来てから五回ほどゴルフコースに出る機会がありました。コース自体は素晴らしいレイアウトですが、施設的にはマレーシアの方が整っているような印象を受けました。

一九六九年に初めてマレーシアに赴任、七一年にロイヤル・セランゴール・ゴルフクラブの会員になりました。このクラブは去年百年祭を祝った歴史的なクラブです。入会金は六百マレーシア・リング、当時の日本円で三万円くらいでした。かなりの大金でした。終身会員制なので、その後二回マレーシアに勤務しましたが、ずっと有効でした。もっとも七九一八〇年の二度目の勤務は国連へ出向、難民援助と担当してしまいましたので、ゴルフどころではありませんでした。今では会員希望者が多く、なかなか会員になれません。入会したらクオリティ・メンバーと一緒にゴルフをしてテストを受けます。ゴルフマナーがちゃんとしているか、ある程度まっすぐ打てるか等、最低ハンディは男子24、女子36以上ないとはいけません。ピギナーはゴルフプロのレッスンをとって、コースで試験を受け、OKが出て初めてコースに出ます。クオリティ・メンバーは毎年



会員の中から選出され、会社役員、医者、退役軍人、弁護士といった人たちが多くいます。

このクラブはオールドコース18ホール、ニューコース18ホールの36ホールと練習コース9ホール、バー3からなっています。マレーシアのゴルフコースの特長はまず暑いということ、日中は四十度近くになり、そこへスコールがどしゃ降りになると芝生が見えなくなります。スコールより怖いのは雷、雷に打たれて死者やけ人が出るので、雷が鳴るとすぐゴルフを止めなくてはなりません。

熱帯なので、ヘビが出る、サルも来る、ティショットの時、ヘビがそばを通ると足がすくむ。グリーンズネークやコブラの毒ヘビも出ますが、噛まれる事故は少ないです。野生のサルが木から下りて来てボールを持って行ってしまうこともある。カラスも沢山いてこれもまたボールをくわえて行く。自然というか、なかなか野趣にとんだゴルフコースです。

入会した当時は英国人の会員がメインでしたが最近では中国系が増え、マレーシア人がジョイン、そこに日本人、韓国人、欧米人が加わり、国際色豊かです。マレーシアは十三州のうち九州にサルタンがあり、サルタン、他の州の長たちはこのゴルフクラブのバトロンです。バトロンはコーテシイで先にプレイ出来るようになっていきます。コースは王宮、政府、各国大使館、企業、ローカルの人との情報交換の場所でもあり、ランクの上でなかなか会えない人とも気軽に話が出来る、生の声が聞けて仕事に役立ちました。

マレーシアには地方に行くと、錫鉱山の跡地を利用した小さな池の多いコースや、椰子林やゴム林からゴルフコースに作り替えたバームコース、ゴムコースなど、マレーシアならではのコースが沢山あります。

*ミャンマーのヤンゴン・ゴルフ・カントリー・クラブ

大雨の中で傘をさしてプレイ

小針弘明トロント総領事館副領事

ミャンマー（ビルマ）のヤンゴン（ラングーン）に八八年から九四年までいましたが、他に娯楽がないのでゴルフばかりしていました。一年の半分が雨季で、バケツをひっくり返したようなどしゃ降りの雨が降ります。その雨の中で傘をさしながらゴルフにいそむのが日本人。ショットの時以外は傘をさしているわけです。医療機関が完備していないので、乗馬など危険を伴うスポーツは避けた方がよい。それで結局ゴルフということになります。テニス湿度が高くてコートに床に苔が生えるので滑って危険です。フェアウェイの水はけが悪く、くるぶしまで水につかることもあります。ラフに入るとヒルがいます。グラウンドではヘビ、サソリは珍しくありません。

ミャンマー名物はバゴダ・ショットです。強い日差しで伸びた芝をバゴダのような形に持ち上げて、その上にボールを載せて打ちます。このコースは九十年くらいの歴史があるようですが、芝の手入れが行き届いていません。それでもアップ・ダウンのあるよいコースなので飽きませんでした。ヤンゴンに駐在する約百三十人の日本人にとって唯一の娯楽の場所でした。ゴルフ場の傍にキャディ村があり一族郎党皆キャディだそうです。私も前任者から社宅、家財と一緒にキャディも受け継ぎました。

この国のエリートは今は軍人で、銃を持った護衛付でゴルフに来ます。軍人が来ると先にコースに出すようになっていました。

次号から

カナダのコースに戻ります。





『冬の暖かい旅』

常夏のアドベンチャー・リゾート

ベネズエラの
マルガリータ・アイランド

サンダース宮松敬子

カナダに移住してもう何年も経つというのに、毎年この寒い季節を迎える度に、こりもせず、冬の間暖かい国で過ごせたらどんなに素敵かと夢見てしまう。

濡れそぼつ落ち葉に足元をとられ、寒々とした冬空が枯れ枝の向こうに見えたら、水着とビーチ・タオル、それに山程の本を抱えて、南に飛んで行く飛行機の乗客になりたい、なんて思うのは私一人ではあるまい。

しかしまあ、それは今のところ夢の夢。せいぜいリタイアしてからのお楽しみに残しておくでしょう。

でもこの時期ラッキーにも、例え一週間であっても「極寒の地」を逃れる事が出来る方に、南米のリゾート地、ベネズエラのマルガリータ・アイランドを紹介したい。

◎カリブ海南諸島、

トロントより南下すること五時間余り。南米の北端に平行して並ぶ五カ国の、左から二番目、コロンビア共和国とガイアナ協同共和国に挟ま

れた国がベネズエラである。赤道から十度という熱帯地域であるから、冬でも最低気温は十五〜十六度、日中は二十八〜九度と快適であるが、もちろん夏は焼けつくように暑い。

カリブ海に面する北端の海岸線は長く、マルガリータ・アイランドはそのカリブ海にちょこんと位置する小さな島である。本土からは約三六キロという近さだから、島の南端に立てばお互いの山並みを肉眼で確認出来る。

この島へは、トロントやオタワからほとんど一年中チャーター便が飛んでいる。時間とお金があり余っている人は別として、一般の人はやはり各種旅行会社のパッケージ・ツアーを利用するのが、便利でしかも一番安上がりではないかと思う。

私が家族と出掛けた六月末は、トロントも夏の暑い盛り、島も蒸し暑い真夏であったから「避寒」という点からはまったくのオフ・シーズン。従って料金もクリスマス前後のハイシーズンと比べると大分安かった

が、冬のレートは大体一週間で一人九百ドルから千六百ドル(各種のタックスは別)といったところである。勿論これは、ホテルの種類や出掛ける日付けによる。

変化の多い小さい島

さてマルガリータ・アイランドは東西に長い島で、車なら一日でゆうに一周り出来る大きさである。しかしそんな小さな島でも、真ん中当たり

りにあるリステング・ラグーン(潟)を境に、島の西側はほとんど木の生えない赤土地帯である、東側は高い山がそびえ立ち、熱帯林が生い茂る緑の多い地域になっていて、変化の多い景色が楽しめる。

どのリゾート・ホテルも、そのほとんどは海岸に面して建てられているので、日がな一日ビーチで過ごすことも出来るし、ウインド・サーフィング、セーリング、スノーケリング(潜水)、テニスなど、ホテルに揃っているアメニティーを大いに利用するのも楽しい。

又どのホテルにも、ローカルのツアー会社がオフィスを持っているので、彼らが開くミーティングに参加すれば、その種類、内容、料金などのインフォメーションが得られる。



勿論向こうは商売だから、なるべく沢山のお客さんを集めたいのは人情。でもツアーの中には、料金に見合う程の中身が無いものもあったりでガッカリすることもある。顔見知りになったホテルの滞在客の中で、すでに行った人から詳細を聞ければ間違いがない。

マングロープの根元に

密生する「かき」

各種あるツアーの中のハイライトの一つは、「ジープ・サファリ」と呼ばれる島巡りだろう。まず最初に島の中ほどにあるリステンガ・ラグーンまでジープで行き、船着き場から小さなボートに乗り込む。

マングロープの木に覆われたうっそうとした水路を一巡するのは神秘的だが、その木々の太い根元にびっしりと生息するかきがまた見事である。食用にするほどには大きく育たないというが、ガイドが取ってくれたのを食べてみたら、確かに小さいが味は悪くない。

群れをなして空を飛ぶペリカンが狙いを定めて急降下し水面の魚をくわえる様も南国ならではの光景だろう。

この後は、赤土地帯を抜けて島の西側で海水浴をし、取り立ての魚料理で昼食。背の低いサボテンが群生するランチで乗馬したり、一匹を七、八人で食べられるという大ロブス

ターの養殖工場の見学もある。そして熱帯林の生い茂る島の東側の山岳地帯をドライブして……といった具合にツアーは続き、一日中たっぷり楽しめる様に趣向が凝らされている。この他にも島にはスクーパー・ダイビングが出来るスポットが幾つもあり、料金によって半日か一日のコースで、それぞれの場所に出掛けて行くようになっていく。

私以外はダイビング・キチガイの家族の話では、期待した程の水の透明度ではなかったというが、それは又季節によっても違うのかもしれない。

マングロープの水路に行く

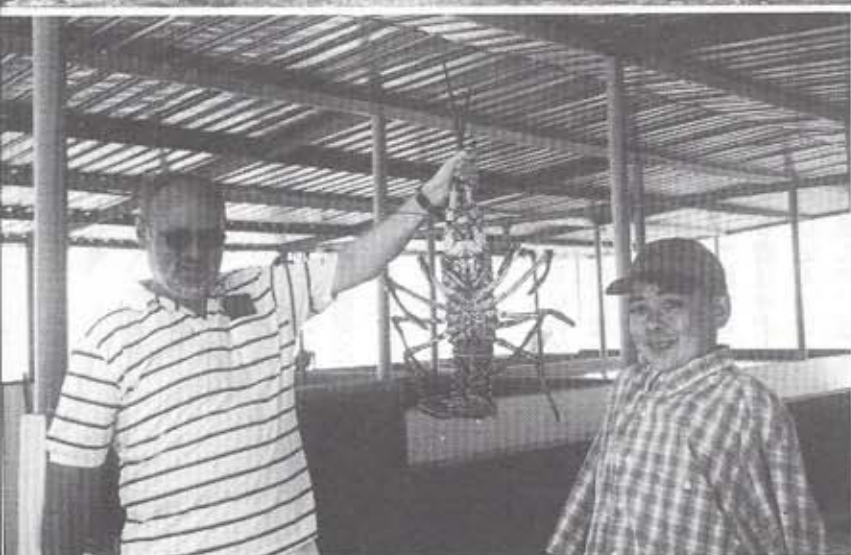


あれもこれもと欲張ると結構料金も馬鹿にならないが、滞在日数とパジェットをよく考えて、こうしたツアーを賢く利用するのは、旅を一層楽しくするし良い思い出を作ってくれる。

セスナでジャングルを飛ぶ

さあ今度は、この島を離れて本土へと飛んでみよう。

ベネズエラといえばエンジェル・フォールス(ANGEL FALLS)。東の隣国ガイアナ協同共和国



大きなロブスター



により近いカナイマ（CANAIMA）と呼ばれる地域に、ちょうどトロントのロイ・トムソン・ホールのような頂上が真っ平らな山が点在する。樹海の中にポコンポコンと見えるこの奇妙な形の山々は、インディオの人たちの聖山で、人跡未踏の地。セスナの中から眺め下ろす事しかできない。

そしてその山の一つから流れる幾つもの滝をエンジェル・フォールズと呼んでいるのだが、一番長いのは一キロもあるといわれる。どれも巾はそれほど広くないが、その見事なまでに真っすぐな水の流れは圧巻である。セスナは、おおいかがさる雲をよけながら、出来るだけそばに近寄り、右に左にと旋回し歓喜の声を上げる乗客にシャッター・チャンスを与えてくれる。

マルガリータ・アイランドからは約二十人乗りのこのセスナが、ツーリストがあり次第毎日飛んでいる。国を東西に貫く南米第三の大河オリノコ川を越え、日本に輸出されるという広大な松の植林地帯を眺め下りし、気のせいにかきさらきら輝く金鉱山を下に見て、行けども行けども続く樹海の上を飛ぶのは確かにスリル満点の経験ではある。しかし、いったん緩急あれば命は助からないことは確かだ。例え助かったとしても、おそらく口を開けて待っている大蛇は五万といえるのでは……とついついからぬ事が頭をかすめたりもする。



セスナに乗ってジャングル探検へ、さあ出発！

インディオの集落を訪問

しかしそれほどまでに見事に密生したジャングルも、このエンジェル・フォールズを見た後二十分程で下り立ったカヴァック（KAVAC）と呼ばれる地域は赤土の高原地帯でインディオの集落が点在している。

ここはツーリストの為に観光局が運営している場所であるから、水道も敷かれトイレも水洗、と西洋文明を垣間見るけれど、土地の人はすべてインディオである。

つややかに見事なまでに輝く赤銅色の肌をした若者の案内で、この村から始まる冒険は、またしばらく都

会の憂さを晴らしてくれる。

ジリジリと情け容赦なく、肌を焦がす太陽に焼かれながら上る土ぼこりの細い山道はかなり険しい。崖の下に流れる川の水音に少しは救われるが、日頃エキサイズなどはほど遠い生活をしていると、まあ何と息切れする事か！しかし噴き出る程に汗をかくことが、これほど気持ちよかったかと改めて気付いたりもする。

土地の人でなければ分からない迷路を抜けて崖を下りると、川の流れが向きを変えるかなり広い岩場に出る。山からの恵みの水は冷たく、ほてった肌には何にもまして嬉しい休息で、泳ぎに自信のある者は皆次々に深い滝壺めがけて飛び込んでいく。

このあと更に山奥に進んで、細い崖と崖との間を通って、その行き止まりの雲をつくような大滝に出るまで、歩いては泳ぎ、泳いで歩きの冒険を繰り返す。

また同じ道を帰る頃には、頭のとっぺんから足の先まで水と汗とでぐっしり。インディオの村に戻った時は、口もききたく無いほどクタクタだったが、なぜか心地よかったのが不思議だった。

空きったお腹には、ハエが一杯たかっているパーベキュー・チキンだ。ってなんのその。機械化した農場で大量生産されるチキンでは味わえない、本当の鶏肉のうまさに舌鼓を打ったものだ。

当然ながら帰りのセスナの中では皆コックリコックリ。冒険一杯の楽しい一日は無事に終わった。

冬の避寒旅行はどうしても料金が高くなるが、一味違った観光をしたと思う、特に子供連れの家族にはマルガリータ・アイランドへの旅はお薦めである。

なお付随ながら、日本のパスポート保持者には、ビザを必要(三十ドル)とされるのでお忘れなく。ベネズエラ領事館は、

2 CARLTON ST. (YONGE ST の角)

にある。

長さ一キロのエンジェル・フォールス

◎外国為替凍結騒ぎを体験

予想してはいたものの飛行機を降りた途端に、足元からむっとする熱気につつまれたマルガリータ・アイランドのエアポート。

持参した扇子をさっそく取り出してバタバタあおげども送られてくる風もまた熱い。

もうそれ丈で頭がクラクラなのに、さっそくやらなければならぬのは両替で、「ポリバー」という聞き慣れない現地のお金に換算する。

到着した日は一USDドルが百八十

ポリバーという。

外国に出ていつも困るのは、いったい最初にどの位両替したらいいのかという事だ。

「エアポートが一番率がいいそうよ」とか「ホテルは一度に交換するのに制限があるらしい」とか、いろいろもつともらしい事がささやかれるのである。

それでも適当に両替してクーラーの効いたバスにかけ込む。

滞在四〜五日目。

急に明日大統領の演説があり、外国為替率が凍結されるとかのうわさが流れた。

さあ大変!

次の日からはいったい一USDドルが幾らなのか全然わからず、買物してもお店によってその率はメチャクチャで、どの数字を信用したらいいのかわからない。

普通でも街中のお店は値段があつて無いようなもの。一見して観光客とわかれば、向こうは吹っかけてくるし、こちらも負けじと値切らなければならぬ。

最初はこんなやり取りも面白いが、そのうちだんだんと面倒になり、買物することじたいがおっくうになってくる。

そこにもってきてこの凍結騒ぎ。いったい一USDドルが現地のお金で幾らなのか、観光客にはもう一つはっきりしないし、ホテルで聞いてももっとも要領を得ないのである。

仕方なくローカル・ツアの支払いはプラスチック・カードで支払ったが、請求書が来るまでいったいどの位チャージされるものやらイライラさせられた。一カ月後には、結局百七十七ポリバーか何かで支払ったが、まあカナダやアメリカでは絶対に味わえない経験といえるだろう。

高中公男のカナダウォッチ

北米は弁護士社会



アンビュランス・チエイサー

米国で生活していくには、弁護士、会計士、そして医師、特に弁護士が不可欠と言われる。そのことは、多分カナダでも同じであろう。確かに、弁護士を主人公とした小説、ドラマ、映画も、ちょっと考えるだけでかなりの数を思い出すことができる。こうした弁護士の「活躍？」は、北米に特徴的な現象のようである。

その理由は、北米社会が人為的に「法」あるいは「制度」によって形成された社会だからということになるだろうか。司馬遼太郎も、エッセイ「アメリカ素描」の中で「日本やスペインや韓国は、そこに Native (先住民) がいて、Natural に存在した国」であり、その意味で「Nation」と定義できるが、北米社会は法律用語である「State」で定義されるのがふさわしいと指摘している。

「法」あるいは「制度」といった人為的なもので形成された人工的な国家であることを考えれば、北米社

会における弁護士の活躍振りも想像に難しくない。つまり、「法」は社会の存立基盤であり、弁護士という存在も、善につけ悪につけ極めて身



近な存在らしい。

だからという訳でもなからうが、その存在もジョークの対象となり易いようである。Sid Behman 著「The

Lawyer Joke Book」(Barnes & Noble 社)は、さしづめ、その代表格ということになるか。その中で、極めて象徴的に弁護士の社会での捉えられ方を巧く説明しているジョークの一つを紹介しよう。それによると、「ある村には、一人の弁護士がいたが、もう一人弁護士が来て、村に弁護士が二人になった途端に、その村はとても忙しい村になってしまった」というのである。このジョークは、弁護士が「ambulance chaser」と呼ばれるゆえんを皮肉交じりにジョークにしたものである。弁護士は、社会生活に必要であるが、その数が多過ぎると、事件が起こるのを探し回るようになり、ちょっとした事件でもケースにしようとするようになるというジョークである。もちろん、ジョークの対象となるということは、弁護士の存在が馴染み深いことの裏返しであり、職業としての人気も高いし、その社会的地位も確立されている。だからこそ、毎年北米中のロースクールから弁護士の候補生が多数輩出され、日本の何十倍の割合で新しい弁護士が誕生することになるのだらう。では、真正正銘の弁護士とは何ぞや。The truly successful lawyer owns his own ambulance (The Lawyer Joke Book) ということにならうか。

(ジェトロ・トレント事務所

調査担当「ディレクター」)

Lunches
Dinners

ま り 子

Mariko

JAPANESE RESTAURANT
(in the carrot common)

348 DANFORTH AVENUE TORONTO
Tel : 463 - 8231

不動産の売買及び貸借全般

日本語でお気軽にご連絡下さい。



ケイ柴田



New World Realty Inc.
Bus/(416)490-1177
Res/(416)498-9998
MBL/(416)409-6104
Fax/(416)490-1928

「長靴下のピッピ」

橋爪 美穂



トロント響ではスクール・コンサート・ウィークというのが年に二週あり、小学、中学、高校向けのプログラムがそれぞれ用意されている。それらの週になると、例の有名なスクールバスがロイ・トムソンホールに象の群れのごとく横づけされて、毎回約二千人の子供達が列をなしてどよよと会場に入ってくる。

指揮は赤白の縦縞シャツにミッキーマウスのネクタイという服装が何故か似合ってしまうボリス・プロット氏。彼は学生向けコンサート専門でもう何年もやっているのだ。熱しにくく、冷めやすい子供達相手に、オーケストラと共に歌わせたり、リコーダーで演奏に参加させたりしながら巧みに音楽の中へ彼らを引き込んでいく。今年の小学生向けプログラムでは初めて「指揮者実体験コーナー」が試され、これが大当たりだった。子供達の中から一人が選ばれて

突然コンサートの主役になるのだから彼らが興奮したのは当然だが、弾いている側にとってもいんな子の特性が見れて楽しかったのである。まずプロット氏が指揮の基本的な腕の動きを子供達に説明して、その場でやらせてみる。そして「ではステージでオーケストラを振ってみよう」ときくと、途端にどっと何百人もの手が挙がって会場は大さわぎになる。この辺、こちらの子供達は失敗を恐れない、という積極的である。その中から一人が当てられてステージに出てくるのだけれど、何故かこれが女の子の場合、三編みの子ばかりなのです。(彼に限らず学校の先生は、三編みの子を見ると指したくなるものらしい……と思いませんか?) まあそれはともかく、当てられた子は、くじで景品が当たってしまった時のように紅潮して舞台に出てくる。「嬉しいけど、どうし

よう」といった喜びと困惑の混ざった複雑な表情である。

二千人の聴衆、プラス六十人の強面の音楽家達の前で、その場で指揮してみようという気になるなんて、この子心臓に毛がはえているんじゃないかしら、と思うけど、子供によってその緊張感への対応が違って、それぞれに面白かった。教えられた二拍子の振りを一心不乱に繰り返す子。いい動きをしているのにだんだんうつつむきがちになって萎縮していつてしまう子。ユニークな動きなのだが、何やらさっぱりわからない子。

まず大抵の場合、やり始めの一分間ぐらいが最高で、そのうち自意識過剰になるのか、動きが自由でなくなってしまう。それでも我慢して最後まで振り続けている子供達はそれはそれで素晴らしいのだが、六人振った中で一人だけ、そうならなかった子がいた。

「長靴下のピッピ」という本、ご存知ですか? 私が小学生当時よく読んだ本の一つなのだけれど、その子の新しいものに対する好奇心に満ちた目がそのピッピを連想させる。彼女は最初、「体が思うように動かない」といった感じで、かちん、とやってくる指揮台に立つと、硬い動きではあるけれど、しっかりテンポが読みとれる所作で振り出した。オーケ

ストラがベルリオーズのハンガリアンマーチを弾き始める。彼女は大音響に驚いているようだけれどもマーチが気に入ったのが、オーケストラが自分に合わせてくるのが快感なのか、にんまりとしている。その顔がおかしくてこちらも楽しくなって弾いていると、音楽が進むにつれて彼女の動きがだんだん大きくなるのびやかなっていった。まるでピノキオが人間に変わっていきみたいに。

人前で何かやるのが好きな人と苦手な人がいて、演奏家として生活していくには勿論前者の方が楽である。私はどちらかというと、人に聴かせたいからというよりは音楽を弾きたいからこの職業を選んだというタイプで、後者に属するのだが、このピッピを見ていて、ヤラレタ、といった気分だった。というのは彼女のアップローチはその得意苦手を一枚越えていたからである。音楽家は日頃、自分の技術的又は音楽的なよさを人に披露し続けなければならぬわけで、その根本にある弾く時血管が太くなるような喜びなんて、昔のどこかに置き忘れてきてしまっている。でも彼女の、人がどう思うと自分は楽しいという時の、人間の本当の強さ、美しさというのは、あれこれ技術を尽くしたものを越えて素晴らしいものだな、と実感したのでした。

(トロント交響楽団団員)

続々『食はモンリオールにあり』

フランス料理に潜む

「アメリカの眼」

加藤恒男



モンリオールといえば、すぐフランス風なものとして決めてしまいがちだが、根っこにアメリカの風土、文化があることを忘れてはいけない。

料理もまたしかり、本稿の初回にも書いたが、このフランス料理にはアメリカの素材が使われ、またそのどこかにアメリカのテーストが潜んでいる。

◎ パッファロー・ステークとパテ・シノワ

フランス語に「アメリカの眼」という表現がある。これは、ヨーロッパからこの新大陸に移り住んだ人々が、いつしか、新しい感覚を身につけていく、アメリカならではの光の微妙の変化や森林の動物たちの素早い動きも見逃さない眼をもつようになるというような意味だろう。つまり、ヨーロッパの知性と、アメリカの感性の融合ともいうべきか。

ケベック・シテイのシャトー・フロントナックのレストランでは、パッファローのステークが食べられる。パッファローとまではいわぬまでも、アメリカ独自の素材を使ったフランス風料理は多い。

次の話はたしか数カ月前に、グロープ&メール紙に載ったので、知っている読者も少なくないかもしれない。ケベックの場所によっては、「中国のパテ（パテ・シノワ）」という料理がレストランのメニューにでてくる。ところで、これは中国とは何の関係もない米国の一種の肉料理である。米国メイン州にシヌワという小さな村があるそうだ。そこが起源の料理なのだが、かつてここに繊維産業が栄えていて、数千人のフランス系ケベック人が職を求めて移り住んだという。そのなごりが、いまま料理のメニューとなって残っているわけである。

もちろん、アメリカの中でもケベック独特の素材というものはある。たとえば、初回で紹介したブルーベリーなどは、スーパーや野菜屋さんで売られているのは、すべて米国産の大粒のものである。しかし、春になればアットウオーターなどの野外マーケットで、ラック・サンジャン産などの小粒のブルーベリーが店頭にあふれる。



Montréal



◎冬は生ガキをふんだんに楽しむ

筆者はいま、ここに来て四度目の冬を迎えた。旅行でモントリオールを離れることがあると、出会う人ごとに、気の毒そうな顔をして「大変ですね」という。しかし、寒さは厳しくとも、冬には楽しみもないわけではなく、まんざらでもない。

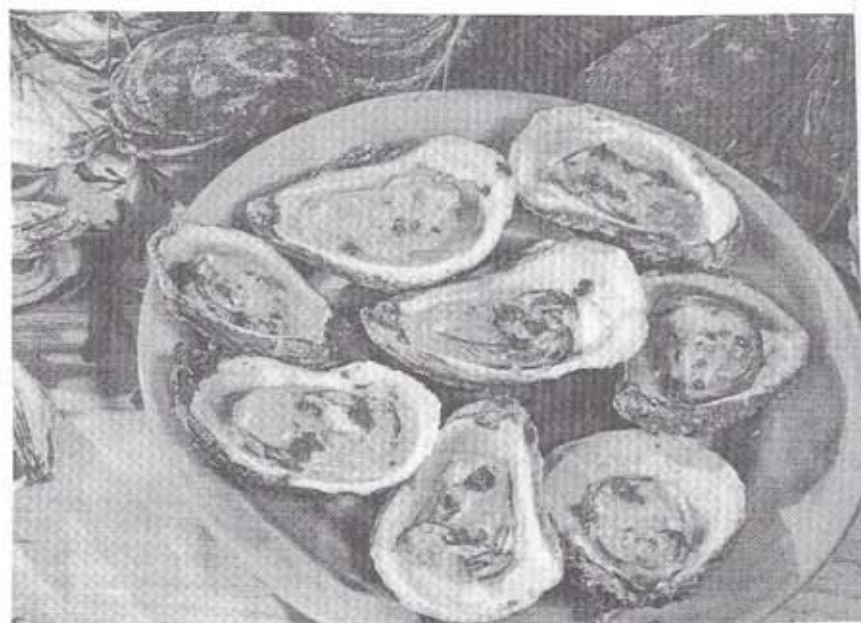
そのひとつは生ガキがふんだんに食べられることである。

パリでは、冬になるとカキ売りが街に売り場をひらく。船頭姿がカキをむいている光景はパリの冬にかかせない風物詩である。さすがに、酷寒のこの地ではそれはかなわぬようで、そうした光景に出会わないが、クイーン・エリザベスホテルのレストランの前では、屋内だがそれをやっている。

カキの食べ方にはいろいろあって、生ガキにスライスした玉葱にキャビアをのせ、レモンをしたたらせて食べるといった、極く贅沢なものもある。

しかし、まあ普通なのはレモン汁で生で食べるというものだろう。だが、市場に出まわるのは十月から五月位とかなり暖かい時期も含まれ、人によっては、生で食べるのに抵抗感を覚えるかもしれない。その場合、お勧めしたいのは魚を焼く網で、さっと火がとおる程度に焼いて食べる方法である。これにボン酢醤油、きざみ葱、それに紅葉おろしを混ぜたものにひたして食べる。紅葉おろしは大根おろしに韓国食品店で売っている粉トウガラシを混ぜて作る。

紅葉おろしが余ったら、冷蔵庫に入れとっておき、生きのいいヒラメを求め、薄づくりにした時のタレに使う。



最後に中華料理について触れる。はっきりいって、バンクーバーやトロントのような本格的中華料理というものは少ないが、やや欧米風のかなりイケるレストランはある。ここではむしろ、中華街の大衆的な店を勧めたい。安くて、肩のこらず美味しい店は少なくない。二四ドルの北京鴨(四人分)や豚足のラーメンを青島ビールと一緒にやって、ウィークエンドの短い昼下りを過ごしたいものだ。

(ジエトロ・モントリオール事務所所長)

詩の想い

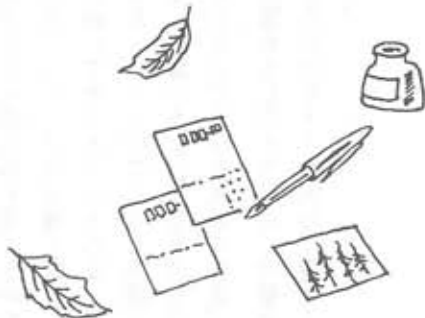
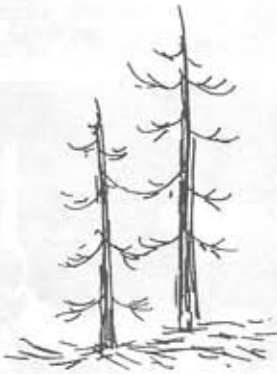
北原白秋

「落葉松」の詩

落葉松と書いて「からまつ」と読む。小学校で春の遠足で山に行ったときに、煙るような新緑のからまつ林に出会った。明るいきみどりの色の中には、何だか別の世界があるようであった。

富士の近くで再びからまつの林を見た時は、それから十年近く経っていた。その頃には、「北原白秋」の「落葉松」の詩のことはよく知っていた。

からまつの林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。



富士山の近くには何度か、行った。風穴・山中湖・樹海、いつもひとりだった。

「落葉松林」の絵はがきをどういう店で、いつの季節に買ったのか、まったく記憶がない。しかし落葉松林の風景に重ねられたこの詩の絵はがきは、その手触りまで覚えている。夏のからまつ林、秋のからまつ林、冬からまつ林、芽吹き時のからまつ林。

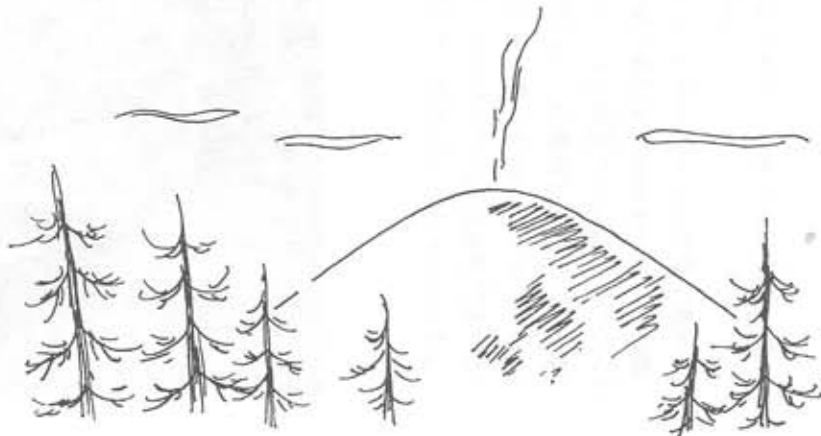
からまつの林を出でて、
からまつの林に入りぬ。
からまつの林に入りて、
また細く道はつづけり。

季節がめぐる度に、その季節の絵はがき一枚づつ無くなっていった。誰に出したか覚えていない。多分その中の一番美しいものは、旅先から恋人に出したことであろう。落葉松の詩を書いた返事が来たことを覚えている。東京から親元にも出したに違いない。

からまつの林を過ぎて、
ゆゑしらず歩みひそめつ。
からまつはさびしかりけり、
からまつとささやきにけり。

「落葉松」の詩は、八つの四行詩からなっている。絵はがきも八枚あった。雨かかるからまつ、雪つむからまつ、道つづくからまつ。いくつか富士に旅することがあったら、絵はがきを探してみようと思う。この詩は入っているであろうか。

からまつの林を出でて、
浅間嶺にけぶり立つ見つ。
浅間嶺にけぶり立つ見つ。
からまつのまたそのうへに。



△「北原白秋 詩集」(西脇順三朗編・白風社)より「落葉松」の詩から、一、二、五、六を抜粋しました。

穂積 由利子

マイ・ホームタウン

田村滋男



熊本の山奥で生まれ落ちた私は、二、三才のころ家族に連れられて神戸に移り住んだらしい。まるで他人事のようにだが、物心がついた頃は九州のことを何一つ覚えていなかったのだから仕方がない。その後、二十二の歳までこの地に住んでいた。だから、わがふるさと

この海と、そして山と。これらが神戸という街を読み解く鍵であろう。

ふるさととを問われると、いつも私は「一ノ谷の戦やぶれ、討たれし平家の公達あわれ」という歌の哀歌を思い出す。年配の人なら誰でも知っている、あの「青葉の笛」である。同じく須磨に關係するうた「淡路島／かよふ千鳥の鳴く声に…」の一首も同時に思い出す。小学生の頃、夏ごとに毎日のように泳ぎに行った須磨の海こそ、私の神戸の原風景のように思う。

海は、すでに清盛の時代から神戸に良港を与えていた。造船、鉄鋼、機械といった近代産業は、この貿易港のおかげで栄えたのである。物の移動とともに、多くの異人さんも移り住んで来て、異国情緒を添えた。ファッションの街、チョコレートやケーキのおいしい街、お酒落な街はこうしてできあがる。

この港は、六甲、魔耶の山々からひじょうに近い。神戸は、海と山の合の街、東西に細長い、坂道の多い街である。坂を降りてくる良水は、酒造りに打ってつけてあった。灘の生一本として有名な酒である。水のほかに、もう一つが坂道をかけ降りて来る。それは、

六甲下ろしと呼ばれる寒風で、真冬にこれに吹かれると実に寒い。本当に寒かった。

この山の一部を海に移し始めたのは、今から三十年前ごろであったろうか。山のあった所と海上にできた埋立地と、一石二鳥で広大な土地が利用できるようになった。現在の神戸は、もはや海と山に挟まれた小ぢんまりした街ではなく、海と山の中にも大きく広がった大都市である。

発展しつつある神戸は、この街が今もなお生きていることのおかげであろう。そして、二昔も前に故

郷を離れた者が勝手なノスタルジーにひたつてあれこれ言うのは、市民にとつては滑稽なことでもあろう。しかし、「遠くにおいて思う」ふるさととは、変わりようがないのである。



お手本は森の空気



マイナスイオン電子式空気清浄

ioncrysta

イオンクリスタIC-300

by TEAC



音響だけでなくコンピューター周辺機器や計測機分野でも世界有数のテクノロジーを誇るティアックが静かで多機能、強力で経済的という理想的な空気清浄機を誕生させました。

TEAC CANADA LTD.

340 BRUNEL ROAD, MISSISSAUGA, ONTARIO L4Z 2C2
TEL: (905) 890-8008 FAX: (905) 890-9888

この裏通信と銘打ったルポは、私自身がネタを見付けるためにわざわざ探し歩く事は決していない。家で自分の仕事をしていると向こうから記事にする事が飛び込んで来るといいうのが現実だ。そこで「それじゃあ」と出かけて行くわけである。そのくらい東京という街は毎日何かが起こっている。

ある日数人と東京のからす公害の話になった。

「誰も言わないけど最近ひどいね。」
「あれって殺しちゃういけないの？」
という会話があって、皆大分頭に来ている事がわかった。

うちの孫は交通の危険な道を通じて登校するので安全な場所まで送って行ってやるのがバアサンの役なのだが、生ゴミが出ている日は車よりからすがこわくて大人でも立ちすくんでしまう。路に出された生ゴミのビニ袋を破ってからすが食事中なのだ。人間が近付くと自分のテリトリーを犯されると思うのか猛然と襲って来る。一瞬パッと飛び上がった、上から攻撃して来るのだ。彼らは頭が良いのか大人と子供がいると必ず

子供の方を狙って来る。キャーキャーと声を出して逃げ走る人間をバカにしているのかカーッと一声、まるで勝ち誇ったような声を上げ、又生ゴミ袋に戻って行く。



私の住んでいる町では住民の被害届けが多いのか最近役所がネットを配ってくれた。なるほど、ゴミ袋にネットを掛けると網目はからすのくちばしより細かいので突つかれる事

はない。兵糧を断てばもう来ないかと思っただけはホッとした住民だったが、相手の生殖能力を断つわけではないので、日に日にその数は増える一方。ふと心配がするので上を見ると、電線がたわわになるくらい五・六羽がじいっと止まって下を見ていたり、街路樹の上で子育てをしていたりする。あんな巢は叩き落としてやりたいと思うのだがなぜか誰もからすを殺そうとする者はいない。

ひと昔前まではからすなどは山林にいたものである。こんな都会の真ん中で人間と共存するなんて想像もつかない現象だった。

あなたも東京に来て、早朝の銀座や新宿の飲食街を歩いて見ると、きつと驚かれると思う。考えてみるとこれは確かに人間が山林を開発して住宅街を作り、彼等の居場所を奪ってきたツケなのかも知れない。

「夕焼け小焼け」の童謡にあるような「からすと一緒に帰りましょ」なんていう心境にはとてもなれない憎たらしい都会の公害である。

* * *

THE JAPAN CANADA JOURNAL

ジャパン・カナダ・ジャーナルは、
カナダ経済についての
ニュースレター

カナダ進出の日本企業、カナダ市場に関心をお持ちの方々、日加経済に携わっていらっしゃる方々にとって
必読の情報メディアです。

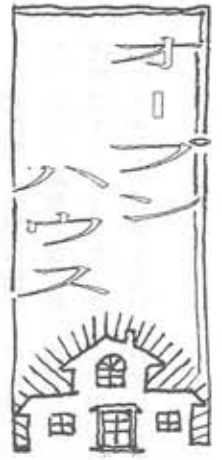
毎月2回、1日と15日に発行
年間購読料 400カナダドル

Mailing Address:
P.O. Box 507, Station "P"
Toronto, Ontario, Canada M5S 2T1

Address:
73 McCaul Street, Suite 729
Toronto, Ontario, Canada
Tel: (416) 340-0853 Fax: (416) 340-0854

*訂正とお詫び

オーロラ秋、第九号の統一食はモン
トリオールにあり」の見出し及び記事
中の「天火井」は「鉄火井」の間違い
ですので、謹んで訂正させて頂きます。
多数の方々からご注意を頂きました。



十一年住んだ家が少々手狭になってきたので家を買替えようという事になった。毎週土曜日に新聞のホームセクションに出ている家の見取り図をまず繰っている私に「そんなチャンスはないよ」という夫の言葉が何年か続いていた。「それでもいいかは……」と当りつげがまし(そ

んな気持ちでなかったとは言えないのです)土曜日の儀式を続けていたのが功を奏したのか、何はともあれGOサインが出た。「百軒は見なればだめだよ」と言う夫に「そんなに見られますか……」と内心思いつつ「はい、ご主人様」。気の変わらぬうちに行動を起こさなければと翌日から家探しが始まった。

現在の家を買った時は家の買い方に慣れていなかった。他人の家の中をくまなく見て回り、寝室の押入れから風呂場、台所の戸棚までのぞいてみるという行動が奥ゆかしい(?)私にはきまりが悪くどうしても遠慮がちになってしまい、見落としてしまった失敗を今回は繰り返すまいと意地悪ばあさんの目のぞきの精神で「あちこちしっかり見てくるぞ」と意気込んでの出陣が開始された。

まずは街中に出廻っている不動産

の小冊子から幾つか選びだし、オーブンハウスへ出掛けることになった。「一時から三時までがオーブンハウスなのでそこが終わったら幾つか見つけろっておいだ所を見せてあげます」というので当日、二時半に会う約束をした。

「写真で見た家より古そう……」と子供と二人で記念すべき第一軒目を訪れた。初めて逢うブローカーの女性は感じも良く「ウン、これならこっちの意見も気軽に言えそう」と一応ホッとす。ブローカーの中には「あそこが見たい」と言っても「あの家は交通量の多い道に面しているからダメ」とか言って「オレの言う事を聞け!」タイプの方もおられるので(読者の方でブローカーの方がいらしたらゴメンナサイ)家探しの第一歩は信頼できるブローカーにめぐり会うことにありそうだ。

人と家との間にも相性がある。新築の新しい家でもちっとも心が動かないもの、古い家でもホッと暖かな「住み家」を感じさせるものと色々ある。一歩足を踏み入れて「ここならいいかな」と思うものは全体を見終わっても「だいたい感想は変わらない。記念すべき一軒目では初めに玄関横の書斎を見た。弁護士さんの家である。

ホールを横切ってリビングルーム、ダイニングルームへ。何かが抜けている感じがする。どうにか体裁はつ

くろっているもののソファアセットの半分が欠けているのだ。中身を見に来たのではないけれどやはり気になる。ダイニングルームの食器棚にはセットであったと思われるグラス類がやはり半分になっていてテーブルが無い。「これはもう疑いようもないゾ。離婚して持ち物を半分に分けたって格好だな。」

二階の寝室を見てこれは決定的になった。チョットとぞいた大きなクローゼットには男ものの洋服だけ。バスルームにも女気がまるで無い。わびしい感じが漂ってきていじ悪ばあさんの目やのぞきの精神が消えてゆく。子供部屋と思われる所はたまに誰かが使うという感じがした。

三時を過ぎてもオーブンハウスに来る人の足が絶えない。こっちは動きようが無いので仕方なく何度か家中を廻ってみる。それにしてもこの家の色調は私の趣味ではないワ。どんな奥さんなのでしょう。リビングルームのソファに座って最後の一族が見終えるのを待っている間、ブローカーの彼女(ミセスDと呼ぶ)がやって来ておしゃべりが始まった。ミセスD「どお、この家……」

一瞬「離婚なさった方の家なのネ」と言おうかと思っただけと思っ止まった。

私「もう少し新しい感じの家だと思っただワ」とさしさわりのない答えをしたのは何か「ウン?」と思わ

せる感じがしたからである。

話が子供の事になり、何人子供がいるのか聞いた私に「ホラその暖炉の上にある写真が私の子供達ヨ」と大学生から小学生まで五人の男の子の写っている写真を指さした。

ミセスDの家じゃないか、離婚したご主人の住んでいる家だったのがある。「あーいろんな事言わないで良かったナ」と内心ホッとしたのは言うまでもない。「自己主張するぞ」なんて勇んでいたけれど、これでまた大和なでしこに戻ってしまっそうだ。

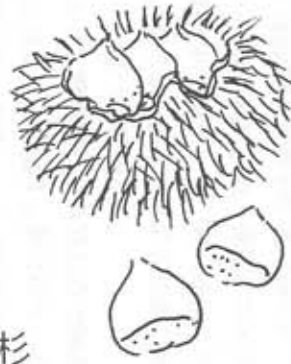
百軒なんて無理だと思っただけれど、一週間に平均五、十軒見て廻っている色々なオーブンハウスにぶつかると鍵のかかっていないドアを開けたらデッカイ犬がすごい歯をむき出して走って来て、あわてて戸を閉め、ミセスDとホッと胸をなでおろしたり、返事がないので鍵を開けて入ってみると、浮気を見付けられあわてふためいた様なドタンという音がして、タオルを腰に巻きつけながら、男性が現れ、我々は笑いをこらえつつ早々に退散して来たりしたこともある。

誰かの生活が見えてしまっオーブンハウスとは本当の意味で「オーブンハウス」なのだと思っづく思う。あと幾つオーブンハウスを通り抜けたら私の夢の家にたどりつくのだからか。(杉山)

季節のキッチン

栗

づくし



杉山園子

枯れ葉がカサカサと音を立てる頃になると街の中はクリスマスマスの飾りであふれ、「暖炉の火では栗がいられ」というあの耳なれたクリスマスソングの歌詞に誘われるように栗が店頭に出まわってきます。お料理にお菓子にと幅広く用いられる栗は何となく郷愁を誘うような、土のおいしさの素材です。今回はこの栗をテーマにしてみました。

栗はブナ科の落葉喬木で、その木材は耐久性、耐湿性にすぐれているので、家屋の土台や鉄道の枕木や、櫓道具などに用いられているそうです。実を食べるだけではないのです。

和風料理では栗は飾りつけに多く用いられますが、栗の甘露煮、栗御飯、栗蒸しようかんなどが代表選手でしょうか。洋風では肉の詰めもの、そしてデザートに多く用いられています。

◎栗の甘露煮

材料

- 栗(大)……………二十個
- くちなしの実……………二個
- 酢……………大さじ一
- 砂糖……………二百七十グラム

《作り方》

- (1)栗は一晩水につけて、むきやすくし、いがついていた部分(皮の色の濃いザラツとしていた部分)に浅く包丁の根元の所で切り目を入れ包丁の角で引っかけけるようにして鬼皮をむきます。渋皮は、ペティ・ナイフでまず周囲をくりりとむき、次に丸みを帯びた面の中央をひとむきしさらにその両脇を二回むき、最後に平らな面を一度にむきます。



合計五回にむき、むいたものから洗って水に約十分つけてアク出しをします。

- (2)(1)をホーローの鍋に入れ、水カップ五杯とくちなしの実を二つに割って入れ、強火にかけて沸騰したら中火にして、栗が黄色く色づくまでゆでます。

(3)(2)の栗を静かに別の水の中にとり、数回水を替えて洗い、くちなしの実を除きます。

- (4)ホーローの鍋に栗を入れ、かぶるくらいの水を加え、分量の砂糖を入れ強火にかけ、沸騰したら火を弱めて、紙ぶた(中に一セ

ンチ程の丸穴をあける)をし、弱火で煮汁が栗にヒタヒタになるまで気長く煮て火からおろし、煮汁につけたまま一昼夜おいて味を含ませます。

*ポイント

栗の鬼皮は一晩水につけておくことが大切です。



渋皮をつけたままの蜜煮をご紹介します。

◎渋皮栗の蜜煮

材料

- 栗……………十個
- 水……………三カップ
- 重曹……………小さじ二分の一
- 蜜
- 水……………一・五カップ
- 赤ざらめ……………百五十グラム

《作り方》

- (1)栗は渋皮を傷つけないように鬼皮をむき、重曹を入れた水で三十分ほどゆでます。充分柔らかくなったら火を止めて一日おき、渋皮に残っている筋を竹串で取り除いて水洗いします。

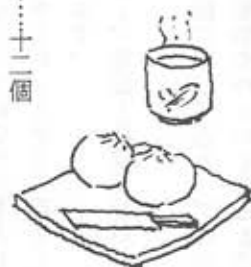
(2)水と赤ざらめを合わせて五分ほど煮、蜜をつくって(1)を加え、紙蓋をして二十五分静かに煮ます。

栗の蜜煮ができるのと栗の茶巾も出来ます。

◎栗の茶巾

材料

栗の蜜煮(小)……………十二個



〔作り方〕

栗の蜜煮を用意し、裏ごしします。八等分して団子に丸め、茶巾(又は晒布巾など)で絞るようにして茶巾形にします。

ほっくりとした栗のおいしさは季節ならではの味覚です。鬼皮と渋皮をむいて米と一緒に最初から炊き込みます。栗御飯を作ってみましょう。

◎栗御飯(四人前)

材料

栗(大)……………十二個

米……………カップ二・三分の二

もち米……………カップ三分の一

塩……………小さじ三分の二

みりん……………大きじ二



〔作り方〕

(1)栗は一晩水につけて、鬼皮と渋皮をむき、水につけて、アクを出してから二〜三つに切ります。(むき方は栗の甘露煮と同じ)

(2)米ともち米を合わせて、炊く三十分〜一時間前に洗ってざるに上げておきます。

(3)炊飯器に洗った米と同量の水を加減をし、栗を加え、塩小さじ三分の二、みりん大きじ二を入れて炊き上げ、約十分蒸らします。

(4)炊飯器の底の方からほぐすようによく混ぜて器に盛り、残りを炊飯器のままおく時は、乾いたふきんをはさんでおきます。

*ポイント

みりんを入れて炊くと味よくふっくらと光沢のある御飯に炊き上がります。代わりに酒でもかまいません。

御飯の後はおいしく甘い栗蒸しようかんはいかがでしょう。

◎栗蒸しようかん

材料

型……………十一センチ×十四センチ×四センチ

(固めの紙で作ったもので充分です)

あん(こしあん)……………二百五十グラム

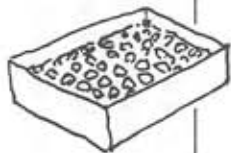
小麦粉……………二十グラム

かたくり粉……………小さじ一

砂糖……………三十グラム(ゆるま湯四十〜五十

CCで溶く)

栗の甘露煮……………十個(四等分に切る・市販のものでもよい)



つや寒天

粉寒天(水でふやかす)(小さじ二分の一)

水……………八十CC

砂糖……………四十グラム

水あめ……………大きじ一

蒸し器を火にかけておきます。

〔作り方〕

(1)ボールにあん、小麦粉、かたくり粉を入れて手で軽く練ってから砂糖水を少しずつ加えながらよく混ぜ合わせます。

(2)蒸し器を火からおろして、クッキング・ペーパーを敷いた型をのせ、中に生地を流し入れます。

(3)生地をゴムベラで隙間のないようにつめて表面を平らにします。強火で約三十分蒸します。

(4)蒸し器をいったん火からおろして、上面全体に栗の甘露煮を並べ、手で軽く押さえて埋め込みます。

(5)ふたたび強火で約三分間蒸します。蒸し上がりをそのまましばらくおいて、完全に冷まします。

(6)冷めたら蒸し器からとり出して、型とクッキング・ペーパーをはずし、表面につや寒天を刷毛で塗ってつやをつけまます。

〔つや寒天の作り方〕

(1)鍋に粉寒天と水を入れて中火にかけ沸騰させてから約一分間煮ます。寒天が溶けたら火からおろして砂糖を加えます。

(2)再び中火にかけ、沸騰したら弱火にして約七分間煮詰めます。手にひとつまみの水あ

めをとって寒天液に加えます。
 (3) 蒸し上がった栗蒸しようかんの表面に塗ります。

和風とは趣を異にする栗の洋風使いでは、肉料理の詰め物が多いのですが、何といっても洋風の代表選手はモンブラン、マロン・シャンテリーなどのデザートといえるのではないのでしょうか。

変わり種としては栗のジャムというのはいかがでしょうか。



◎チエスナッツ・ジャム
 材料

栗……………一キロ
 水……………約六カップ
 砂糖……………約五カップ
 バニラ・エッセンス……………小さじ一

〔作り方〕

(1) 栗は底の平たい部分に十字に切り目を入れ栗がすっかり水でかくれる大きさの鍋に入れ、約十分ほど煮ます。

(2) 少しずつ水切りをし、鬼皮と渋皮をむいておきます。

(3) 煮汁を捨て、栗を鍋に戻し、五カップの水を入れ、蓋をして栗がやわらかくなるまで四十五分ほど煮ます。これをビュレにします。

(4) ビュレ状の栗の量を計り、同量の砂糖を用意します。
 (5) 砂糖を鍋に入れ、一カップの砂糖に対して四分の三カップの水を入れ、砂糖が溶けるまでかきまぜながら沸騰させます。
 (6) (5) にビュレ状の栗とバニラ・エッセンスを入れ、弱火で十五分ほど煮ます。

小さい頃手にしたカスターネットは、スパニッシュ・ダンスに欠かせないスペイン産の楽器ですが、これを作るのに昔から使われているのは栗の木です。昔は型も栗の形に似ていたのかも知れません。

栗のしめくりとしてはやはりクレープ・モンブランをご紹介します。

◎クレープ・モンブラン
 (八人分)

材料 (クレープ生地)

全卵……………一個
 卵黄……………二個分
 牛乳……………二百八十CC
 薄力粉……………百二十グラム
 塩……………二つまみ
 無塩バター……………五十グラム
 砂糖……………大さじ一



〔作り方〕

(1) ボールに全卵と卵黄と塩を入れて、よくほぐし、牛乳を加えます。
 (2) 薄力粉をふるいにかけて、二度ふるいをしながらボールに加え、泡立て器でよく混ぜます。砂糖を加えて混ぜ、そのまま室温で半日休ませます。休ませた生地に溶かした無塩バターを加えて混ぜます。
 (3) 八枚のクレープを焼きます。

材料 (モンブラン)

さつま芋……………百グラム
 マロンペースト(缶詰)……………七十五グラム
 生クリーム……………三十CC
 コニャク又はブランデー……………大さじ二分の一
 ダーク・ラム酒……………大さじ一

〔作り方〕

さつま芋はふかして裏ごしし、マロンペーストを入れて混ぜます。トロリとした状態に泡立てた生クリームを加えてよく練り、コニャクとダーク・ラム酒を加えます。

仕上げ

焼き上がったクレープ生地でモンブランを包み、仕上げに粉砂糖をかけます。

紅茶を入れて栗のお菓子を食べながら木枯らしや吹雪の音に耳を澄ませる……こんな冬の日を過ごすのもいいものです。



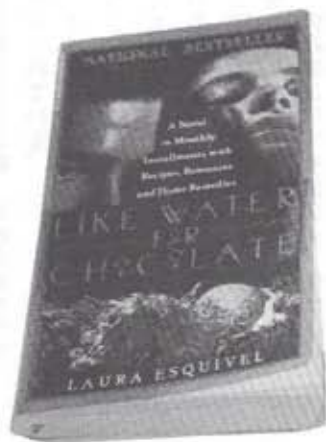
Like water for chocolate

『赤い薔薇ソースの伝説』

ローラ・エスキヴェル著

大地の恵み --- 「食」と「ロマンス」

馬場直美



食べ物に關した小説や映画というのは、少なからずある。「バベットの晩餐会」というデンマークを舞台にした物語は小説、映画とも本当に繊細で美しく、素晴らしいものだった。日本の例では「タンポポ」なんていう、ラーメン作りに燃える女の話があったし、最近では台湾映画「Eat Drink Man

woman」というのが話題を呼んだ。それでも、この「Like water for chocolate」ほど、「食」をロマンチックに官能的に取り扱ったものは、ないだろう。

それぞれの章は、料理の材料と作り方の説明で始まる。ちよつとパラパラめくっただけでは、料理の本と勘違いしそうだが、ここに盛り込まれたものは、一言では言い尽くせないスケールの大きい『詩』である。

舞台は、今世紀はじめのメキシコの農場。三人娘の一番下として生まれたテイタは、その家のしきたりによって、一生母の面倒を見ることを義務づけられ、恋人ペドロとの結婚を許されない。そこで、ペドロはテイタの近くにいたいという思いだけで、テイタの姉との結婚を承諾する。それはテイタにとつて、激しい苦悩と歓喜の始まりである。同じ家に暮らしながら、お互いにゆつくり話すこともできない状況の中で、テイタは新しい愛の伝達方法を見つめる。それが、彼女が思いの限りを尽くして作る料理なのである。

薔薇の花びらを使って作ったソースをすくって食べるペドロは、テイタが体に熱く入りこんでくるのを感じる。テイタの料理に反応するのは、ペドロだけではない。例えば、テイタが料理中に涙を落とせば、それを食べた人は皆過去への様々な思いで涙を落としてしまう。

とても不思議な語り口である。時には、昔話・御伽話風。ある時は繊細な心理描写。料理の作り方のこと細かな説明。そういうアンバランスがまた詩的なのである。優しさや愛、嫉妬や、憎しみや、怒りの奥に、歴史の重み、死者への思い、そんなものが幾重にもなつて、それはあたかもテイタが毎夜色とりどりの布きれを集めてつくるキルトのようだ。

でも、底を流れているのは、皆を包みこんでいる大地との密接なつながりだと思ふ。大地から来る恵み。それをいとおしんで大切に、作る料理。最

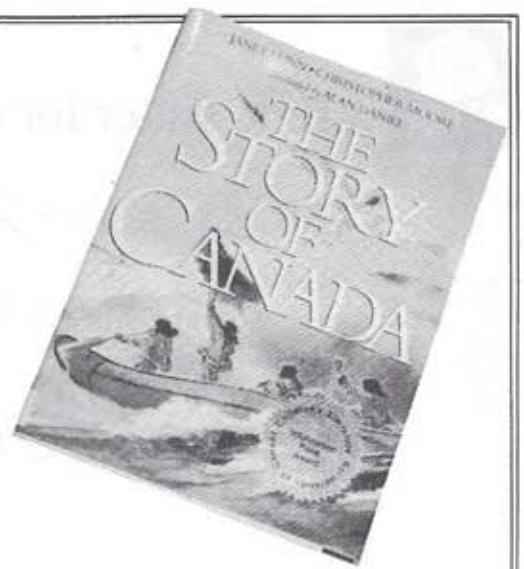
後によくやく誰の目をはばかることもなく二人が結ばれた時、二人の炎によって辺りは火に包まれるが、焼けて灰に埋もれた土地は何でも育つ肥沃な土地となった、という民話的なエピソードも、それを表している。

現代は、飽食の時代と言われても、食べ物の内容はどんどん貧しくなっていると、言えないだろうか。おばあちゃんの心を込めた家庭料理より、オーダしたピザの方がいいという子供を、私は何人も知っている。その家伝来のレシピーなんて、核家族の共働きの今の家庭には望めない。

自然の恵みを採りいれて、それを何段階も経てご馳走に仕上げることに、それは時間のかかる作業だ。新天地にやってきたアメリカ人は、世界に誇るアメリカ料理というものを作り上げることができなかったではないか。歴史の浅さは、料理の奥行きの高さに顕著に現れている、というのは言い過ぎだろうか。ところが今や、何も北米に限らず、世界の趨勢は、何でも簡単に時間のかからないように、という方向であるから、この先食べ物はどうなっていくのか、不安だ。

本を読んだ後で、ビデオも借りてきて見た。映画もなかなか美しかったが、私は本の中に出てくる一つ一つの小さい挿話が好きだ。例えば、豆がなかなか煮えない時は、鍋の前で歌ってあげるといい、など。ちなみに、私の連れはビデオを見ながら、次から次へと現れるご馳走に対し、しきりに「腹が減った。」と、こぼしていたが、この話のロマンは解さなかつたようである。花より団子というわけか。だが、このストーリーのテーマは、『花と団子は両立する』ということなのである。

Like water for chocolate (Laura Esquivel 作、Anchor Books, セドル九九セント) 原作スペイン語



THE STORY OF
CANADA

絵と写真が豊富に入った、カナダの歴史の本。この国で起こった、ユーマラスな話、勇気ある話、悲劇、発見、などが興味深い写真と過去を彷彿とさせる絵、明瞭な語り口で述べられている。

ネイティブの歴史、移民、プレーリーのバッファロー・ハントや初めて大陸横断鉄道が開通した時のこと、日系人の強制収容に関してトラックに乗せられる日系人の写真と共に歴史として描かれている。

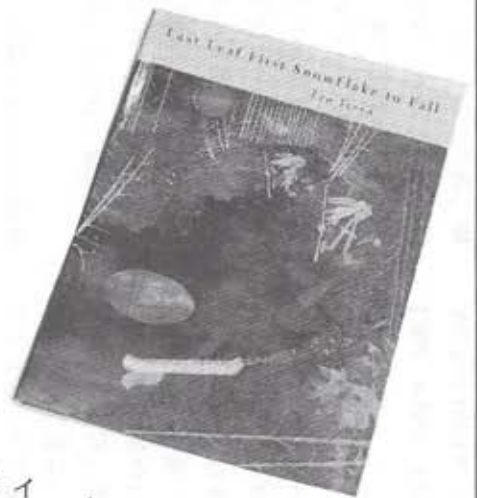
読み物としても面白く、資料としても便利な本。

LESTER PUBLISHING LIMITED
/ 95ドル

LAST LEAF FIRST
SNOW FLAKE TO
FALL

ページを繰ると、落葉や、焚火、池、初雪、のにおいがしてくる。著者のLEO YERXAは、1947年オンタリオ北部のリトル・イーグル・リザーブで生まれ、父親と猟や釣りをして多くの時間を過ごした。秋から冬になっていく自然の中にあるような感じがする本。

(A GROUNDWOOD BOOK / 14・95ドル)



JOSEPHA

イラストも物語も非常にインパクトが強い。舞台は1900年の開拓時代のプレーリー、語られる内容はプレーリーの少年と移民の少年JOSEPHAの間に生まれた美しい絆である。移民の少年の言葉の出ない苦しみ、文化的な壁は、英語を話せないでこの国に来た子供が多少にかかわらず経験するものであるが、その苦悩をとりあつた稀な本と言える。

(RED DEER COLLEGE PRESS)
14・95ドル



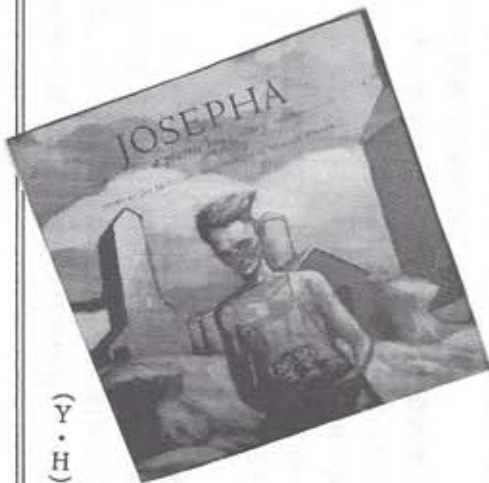
クリスマスに子供に送りたい
カナダで出版された四冊の本

TICKET
TO
CURLER

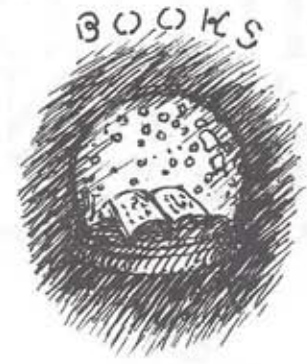


「大草原の小さな家」がアメリカなら、これは「カナダの小さな家」。1915年に主人公のサム一家はアルバータのCURLERというところへ引っ越してくる。初めはどうして父親がここに来たのか疑ったサムだが、大自然のドラマの中でしだいにプレーリーが好きになっていく。著者のCELEIA BAKERは、子供時代をプレーリーで過ごしている。中学生向き読み物。

(A GROUNDWOOD BOOK / 14・95ドル)



(Y・H)



「あの娘の母はこの母の娘」

ヒロコ・ムトー著
祖母、母、姉（「小さな恋人」の漫画家トシコ・ムトー）、私、そして娘とのかかわりを心あたたまるタッチで描いた書き下ろしエッセイ。
（文藝春秋社、予価一、三〇〇円）

「カモメの離婚」

ウィリアム・ジョーダン著
相原真理子他 訳
アメリカ・ナチュラリスト傑作選
カモメの父親と母親が卵をめぐって争いを起こす？人間によく似た動物たちの行動をユニークな視点から解明する愉快なエッセイ。（白水社、二、三〇〇円）

「95年版、新車完全ガイド」 山田昇著
「知らななきゃ損するクルマ選び」
派手なCMやセールストークではわからないクルマの本当の実力を、あくまでユーザーの立場から徹底解説。注目のR V、外車も満載。
（飛鳥新社、一、四〇〇円）

「オリーブの本」

B・ジャコト著
小林敦夫 訳
プロヴァンス・ブームでオリーブは今最も注目を集める油。美肌効果・タイエ

ットにきくオリーブ料理やオリーブの文化を紹介。
（河出書房新社、予価一、六〇〇円）

「すでに起こった未来」

R・F・ドラッカー著
上田博生他 訳
時代の変化をつかむにはどうしたらよいのか。幾多のトレンドを正確に言い当ててきた著者が示す未来を見抜くヒント
（ダイヤモンド社、二、三〇〇円）

「京料理」

淡交社編集部編
矢野正善 写真
「名亭のおまかせ料理」
貴重な文化といえる京料理を、京都を代表する二十三の名亭より一月から十二月まで四季を追って自慢の料理を揃えオールカラーで収録。
（淡交社、予価一、三〇〇円）

「死ぬまでになすべきこと」



式田 和子

「子供や配偶者はあてになりません」と表紙にある。まえがきによれば、著者は、月刊「くらしの研究」という、主婦を中心とした会員向けの投稿誌を昭和四十五年から発行している。著者は一九二五年生まれだから、四

十六歳の時に創刊したことになる。創刊時は舅・姑をお見送りする側になった投稿が多く、最近の十年は見送られる側になったという。「みんなで老いれれば怖くない」をモットーとしているとあるが、このあたり、日本人らしいユーモアがうかがえる。
内容は「夫婦でも」終の道「ひとりぼっち」「死んでゆくのに物はいらぬ」「金は自分名義で、子供に残すなかれ」「灰になるまで男は男、女は女」「死、そしてお墓」「さあ、死ぬまでに何をしますか」などなど、辛口で、厳しく、しかも暖かい十章。からりと読める人生のしめくり方の本だ。

（主婦の友社・千三百円）
（Y・H）

OCS
OVERSEA COURIER
SERVICE

海外新聞普及株式会社

日経・朝日・読売新聞国際衛星版を同日配達いたします

新聞・雑誌・書籍の御注文はOCSへ

Toronto

480 Carlingview Dr, Rexdale, Ontario M9W 6M8
Tel:(416) 675-9061, 9063

Vancouver

3600 Viking Way, Unit 250, Richmond, B.C. V6V 6M8
Tel:(604) 270-1139



読者からのお便りのページです。



編集室から

*秋のオーロラへ

秋のイベント・カレンダーを楽ししく読みました。マイグレーション・フェスティバルというあまりの素敵な発想にびっくりしました。実はカナディア

ン・ギースに憧れていたのですが、今年トロントを訪れた時、ハイパークで初めてお目にかかりました。ジャックマイナース・サンクチュアリにはぜひひ行きたいです。でも十月には休みをとれないので、カナダの紅葉とサンクチュアリは退職した時の楽しみにするしかないようです。

(京都 深井耀子)

・そのカナディアン・ギースに餌をやる人が多くて渡らなくなったのもいるようです。南に行く鳥との別れは、こ

の後に厳しく孤独な冬がやって来るからこそ、一抹の淋しさと憧れを感じさせるのでしようね。

*だんだん特色が出てきたオーロラ

秋号の表紙を拝見した時、何かとても爽やかなものを感じました。内容も細やかで暖かで心のひだにふれる記事が多かったと思います。秋号で創刊二年ということですが、カナダのライフスタイル誌として特色が出てきたと思います。これから楽しみにしています。

(トロント 鈴木道子)

・とても大切な点をご指摘いただいて、有り難うございました。あくまでもカナダのライフスタイルという視点から雑誌作りをしていきたいと思えます。

HELLO JAPAN

Citytv channel 57
Cable 7
EVERY SUNDAY 12:30~1:00 P.M.



JAPANESE FOODS & GIFT SHOP

SANKO

730 QUEEN ST. W. TORONTO

TEL (416) 367-4550 / FAX (416) 367-8593

・トロント市庁舎前のクリスマスマスの飾り付けでも見ながらコーヒを飲もうと広場に面したホテルのバーに行ったら満員でした。みんなテレビで競馬をしているのです。仕方がないので、ロビーの豪華なクリスマスツリーを見ながらお茶を飲みました。たった一時間でしたが気持ちを豊かにしてくれました。そういえば、この前メノポーズについての講演会に行った時、気分を変えるのに「いつもしていないことをする」というのがありました。メノポーズじゃなくてもよく効くようです。

(Y・H)

・今年も十二月、毎年このシーズンになるとテレビで必ずルチャノ・バヴァロツティのモントリオール、ノートルダム寺院からのクリスマス・ミサのライブ・コンサートが放映される。カナダに来た年に初めて放送され、それからほとんど毎年見ているのだからもう十数回以上見ていることになる。彗星のように現れてテナーの王座に昇りつめたバヴァロツティ、今年も又、また若かった頃のバヴァロツティの張りのある声を聴きながら、夜おそく食卓の上いっぱいにおーロラ原稿や写真、レイアウトの仕上りを広げて、最後の作業に取り組んでいます。

(K・H)

オーロラ購読申し込み用紙

年4回発行 年間購読料14ドル(郵送料、GST込み)
小切手を添えて郵便でお申し込み下さい

オーロラ

ネーム _____

アドレス _____

郵便ナンバー _____

オーロラ

(代表・平塚かずよ)

お試しになりました?
ベストセラー
FLOWLIN



発売以来日本では男性にも女性にも幅広く人気を博しています。当カナダでもお求め頂けるフローリンは、ふけや抜け毛を防ぎます。洗髪後フローリンを頭皮にかけ、指先でマッサージして下さい。空気の乾燥する冬は常に頭皮の清潔を心掛け、洗髪をまめにして下さい。

資生堂化粧品は、平成マート、Bay, Eaton, Sears等、約240店の化粧品売り場でお求め頂けます。日系の皆様方には何かとご不便をおかけしていると思います。お困りのことやお問い合わせなどがおありでしたら、販売担当の西田まで、ご連絡頂きたいと存じます。

電話 = (416) 361-3324

住所 = Shiseido Canada Inc

468 Queen Street, East, Suite 212 Box 12
Toronto, Ontario M5A 1T7

SHISEIDO

626
CRONOS

GIVE THE FAMILY
A GOOD NAME.

Today the competition in the family sedan market is fiercer than ever. But one glance at the 1993 Mazda 626 Cronos will convince you that this compact, yet spacious sedan was designed with your family in mind. With design and quality levels far beyond traditional sedan expectations, the 626 Cronos provides more headroom and total legroom than either Camry or Accord. The 1993 626 Cronos also offers a vast array of competitive features for your family. Fluid, sculpted lines. A roomy interior. A double-overhead-cam engine that's as smooth as silk. An extra-large wiper fluid tank. And a driver's-side airbag. The 1993 Mazda 626 Cronos. Just imagine what the neighbours will say.



mazda
IT JUST FEELS RIGHT

はじめてなのにとてもよかった。

また行って見たい

CANADA

● Banff
● Vancouver

● Niagara

みやげばなしは——OKギフト



OKギフトショップ

バンクーバー店：1054 Alberni St., Vancouver, B.C. V6E 1A3 Tel: (604) 689-5513
バンフ店：P.O. Box 1170, 209 Banff Avenue, Banff, Alberta T0L 0C0 Tel: (403) 762-3133
ナイアガラ店：6683 Oakes Drive, Niagara Falls, Ontario L2G 7G1 Tel: (905) 374-1100
東京事務所：東京都千代田区九段北1-4-5九段ニューセントラル4階オーケー商事 Tel: (03) 3237-9876

